日本男子ナショナルチーム

第1回極東トーナメント大会 優勝

去る９月５日から12日の間、中国上海市において極東６ケ国14チームが参加して開催された第一回極東男女トーナメント大会に参加した日本男子ナショナルチームは７チームによる男子の部に於いて６勝０敗で優勝を果たした。

参加各国はそれぞれナショナルチームを送り込み（韓国は現在ナショナルチーム未編成のため前、元ナショナル選手４名を含む全成均館大学）熾烈な戦いが展開されたが日本チームは新チーム結成後３回目の国際試合という経験不足を克服、冷静な試合運びで初の栄冠を手中にした。

女子は残念ながら４位にとどまった、男女チームの今後の一層の活躍に期待したい。

〔優勝チームメンバー〕

監　督	蒲生　晴明
コーチ	田口　　隆
	関　　健三
Ｇ．Ｋ	橋本　行弘
	林　　康一
	河野　裕光
Ｃ．Ｐ	魚住　和彦
	富本　栄次
	梅基　幸一
	末岡　政広
	田中　　茂
	平松　茂雄
	小沢　勝利
	渡辺　　浩
	藤井　孝志
	源内　利之
	中山　　剛

（詳細　次号）

第43回全日本高校ハンドボール選手権大会

男子 下松工 女子 名短付が栄冠を獲得

男子

1回戦

氷見（富山）20（12－7、8－8）15 長浜北（滋賀）
境港工（鳥取）28（14－9、14－11）20 盛岡第一（岩手）
桃山学院（大阪）26（16－9、10－6）15 新居浜工（愛媛）
富岡（群馬）19（7－7、7－7、1－2、4－1）17 仙台育英（宮城）
西宮東（兵庫）28（14－4、14－4）8 小諸（長野）
香川中央（香川）20（13－7、7－10）17 土浦日大（茨城）
都城泉ヶ丘（宮崎）18（9－11、9－6）17 三条工（新潟）
青森商（青森）16（8－5、8－7）12 神埼農（佐賀）
市川（千葉）29（12－9、17－12）21 生駒（奈良）
桂（京都）17（9－7、8－3）10 小松明峰（石川）
都城工（宮崎）19（10－6、9－8）14 東根工（山形）

2回戦

国学院栃木（栃木）33（17－4、16－8）12 江津（島根）
鹿児島工（鹿児島）20（11－8、9－6）14 池田（徳島）
修道（広島）16（8－3、8－7）10 学法石川（福島）
北陸（福井）29（16－9、13－11）20 日川（山梨）
那賀（和歌山）19（9－9、10－8）17 総社（岡山）
浦和学院（埼玉）21（10－7、11－8）15 氷見
境港工 25（15－6、10－8）14 釧路湖陵（北海道）
桃山学院 26（12－4、14－7）11 四日市工（三重）
富岡 20（13－7、7－7）14 長崎日大（長崎）
大分電波（大分）23（11－6、12－6）12 西宮東
香川中央 24（13－8、11－6）14 清水市商（静岡）
横浜商工（神奈川）31（16－6、15－6）12 都城泉ヶ丘

下松工（山口）16（6－4、10－7）11 青森商
市川 12（5－4、7－3）7 久工大附（福岡）
桂 34（17－9、17－11）20 土佐（高知）
岐阜西工（岐阜）20（13－4、7－11）15 都城工
コザ（沖縄）18（10－5、8－10）15 国学院栃木
拓大一（東京）22（9－8、13－7）15 鹿児島工
愛知（愛知）20（11－6、9－11）17 修道
北陸 21（11－5、10－7）12 湯沢（秋田）
熊本市商（熊本）33（15－10、18－8）18 那賀

3回戦

浦和学院 16（8－6、8－6）12 境港工
桃山学院 33（20－9、13－7）16 富岡
香川中央 11（8－8、3－2）10 大分電波
下松工 18（10－3、8－4）7 横浜商工

市川 16（10－3、6－8）11 桂
コザ 18（9－6、9－7）13 岐阜西工
拓大一 19（9－7、10－9）16 愛知
熊本市商 24（12－7、12－7）14 北陸

準々決勝

桃山学院 23（10－9、13－9）18 浦和学院

〔戦評〕前半、桃山学院は中野のミドルシュートなどで得点を重ね、一方、浦和学院もポスト攻撃やカットインプレーなどで加点する。中盤までは桃山学院のペースでゲームが進んだが、14分過ぎ、桃山学院の退場の間に浦和学院が3連続得点で同点に追いつく。

後半に入り、桃山学院のディフェンスが徐々に良くなり、相手のポスト攻撃を封じると同時に、速攻に結びつけてリードを広げていった。浦和もGK諸橋の好守などで粘りを見せたが及ばなかった。

得	〔桃山〕		〔浦和〕	得
0	元村	GK	諸橋	0
0	辻田	GK	中野	0
0	大熊	FP	須藤	1
8	中野	FP	大邑	5
2	文野	FP	佐藤	4
2	文平	FP	小山	1
5	河村	FP	北川	2
1	藤谷	FP	奥村	0
1	河合	FP	雑賀	0
2	西村	FP	紅林	2
0	尾山	FP	星野	1
2	小薮	FP	金子	2
23		〔審・浜田、小笠原〕		18

下松工 17（6－7、8－7、0－1、3－1）16 香川中央

〔戦評〕立ち上がりから両チームとも固さが見られ、パスミス、シュートミスが多く、なかなか点に結びつかなかった。そういう接戦のなかで香川は20分過ぎよりリズムにのり、所の3連続得点で7－6と1点リードして前半を折り返した。

後半はスピーディなゲーム展開となったが、下松工はテンポの良い香川のディフェンスをなかなか崩せず、後半10分まで10－7と香川にリードを許す。しかし、香川・深谷の退場を機に波に乗り、保科のスカイプレー等で反撃に出た。その後は下松が執念で追い上げ、延長戦に突入した。延長はお互い守り合いとなったが、地力に勝る下松工が1点差で勝利を収めた。

得	〔下松〕		〔香川〕	得
0	坂田	GK	黒川	0
0	亀山	GK	香西	0
5	保科	FP	高津	0
5	田村	FP	高田	2
0	仲子	FP	深谷	3
3	原田	FP	岡	2
0	石崎	FP	宮本	2
0	九十九	FP	高崎	0
1	佐藤	FP	岡	0
0	中村	FP	所	6
0	渡辺	FP	西村	1
3	岩本	FP	上原	0
17		〔審・石原口、渡辺〕		16

市川 23（11－7、12－11）18 コザ

〔戦評〕序盤から両チームとも早

いパス回しと足を使った攻撃で激しい点の取り合いとなった。市川はキャプテン福田がPTや鋭いミドルシュートで得点するのに対してコザは名嘉山のサイドシュートやカットインプレーで応酬する。前半終了間際に市川がコザのミスを次々と得点に結びつけ、4点リードで前半を終えた。

後半コザは、動きの良い市川のディフェンスに苦しみ、市川の速攻で徐々にリードを広げられていく。中盤から終盤にかけては一進一退の攻防が続き、市川がリードを守り切って勝利を収めた。

〔コザ〕

	選手	得
GK	謝名堂	0
GK	長嶺	0
FP	仲宗根	1
FP	桑江	0
FP	徳村	2
FP	喜友名	0
FP	宮里	3
FP	松堂	0
FP	嘉陽	2
FP	名嘉山	5
FP	島袋	3
FP	照屋	2
		18

〔審・中川 黒木〕

〔市川〕

	選手	得
GK	百瀬	0
FP	福田	8
FP	西谷	6
FP	猪野	1
FP	黒坂	2
FP	浜田	2
FP	今井	0
FP	松本	0
FP	小沼	0
FP	香月	0
FP	湯本	4
		23

熊本市商		拓大一
22	12－11	21
	6－7	
	1－1	
	3－2	

〔戦評〕拓大は開始早々に熊本のポイントゲッター森山にマンツーマンをつける作戦に出るが、熊本は米満を中心に早いボール回しからミドル、ポストなどで点を重ねていく。一方、拓大も佐々木の豪快なロングにポストやサイドを織りまぜ1点差で折り返す。

後半に入ると遂に10分、永田、佐々木のロングで逆転に成功。その後は一進一退の攻防が続いたが、残り34秒、PTで熊本が追いついた。延長に入っても両チームとも交互に1点ずつ取り合い、同点のまま延長後半に入る。終了34秒前に熊本の左サイド・村上がゲット、逃げ切った。

〔拓大〕

	選手	得
GK	須田	0
GK	樋口	0
FP	水落	0
FP	佐々木	9
FP	小野	1
FP	相原	3
FP	永田	6
FP	高森	1
FP	荒谷	1
FP	横山	0
FP	森田	0
FP	西山	0
		21

〔審・奥川 中山〕

〔熊本〕

	選手	得
GK	中村	0
GK	富永	0
FP	森川	0
FP	新井	1
FP	森川	0
FP	村上	2
FP	米満	4
FP	原田	4
FP	上田	0
FP	森山	9
FP	池田	2
FP	北原	0
		22

準決勝

下松工		桃山学院
16	9－7	14
	7－7	

〔戦評〕立ち上がりから速いテンポで攻める両チーム。先制点は岩本のロングが炸裂した下松。その後も好調な岩本のロングでリードする下松に対し、桃山学院もエース中野のロングで対抗する。しかし、速攻でのパスミスが目立つ桃山が14分過ぎからもたつく間に田村の絶妙なサイドシュートが決まる下松が2点リードで前半を終える。後半は1点をめぐり激しい死闘をくり広げ、下松が保科、田村のシュートで加点すれば、桃山もエース中野と小薮のシュートで追いかける。しかし、肝心のところでパスミスを犯し、チャンスをつぶした桃山があと一歩及ばなかった。

〔桃山〕

	選手	得
GK	元村	0
GK	辻田	0
FP	大熊	0
FP	中野	7
FP	大野	0
FP	文平	1
FP	河村	0
FP	藤谷	1
FP	河合	0
FP	西村	1
FP	小薮	4
FP	井上	0
		14

〔審・中川 岡本〕

〔下松〕

	選手	得
GK	坂田	0
GK	亀山	0
FP	保科	4
FP	田村	7
FP	仲子	0
FP	原田	0
FP	石橋	0
FP	九十九	0
FP	山本	0
FP	佐藤	0
FP	渡部	0
FP	岩本	5
		16

市川		熊本市商
21	14－11	19
	7－8	

〔戦評〕熊本市商のスローオフ直後から米満と森山を厳しくマークする市川だが、早いパス回しでマークをずらされては米満にロング、ステップとしてやられ、試合の主導権を奪われる。しかしながら市川も福田、猪野の豪快なロングシュートで追いすがり1点差で前半を終了。

後半は逆にマークにあった市川・福田の猛打爆発で白熱した好ゲームとなった。中盤、市川に退場者が2名出る間に3点差をつけた熊本市商がそのままいくかと思われたが、ここから盛り返した市川がエース福田の活躍で5点を連取、逆転して決勝進出を果たした。

〔熊本〕

	選手	得
GK	中村	0
GK	富永	0
FP	新井	1
FP	森川	0
FP	村上	1
FP	米満	8
FP	原田	1
FP	永田	0
FP	上田	2
FP	森山	2
FP	池田	4
FP	北原	0
		19

〔審・浜田 小笠原〕

〔市川〕

	選手	得
GK	百瀬	0
FP	福田	11
FP	西谷	3
FP	猪野	3
FP	黒坂	1
FP	浜田	2
FP	今井	0
FP	松本	0
FP	小沼	0
FP	香月	0
FP	湯本	1
		21

決勝

下松工		市川
21	10－6	11
	11－5	

〔戦評〕開始15秒、下松・佐藤の先取点で決勝戦のドラマは幕を切っておとされた。序盤、フェイントからディフェンスを崩されて攻守のリズムがつかめない市川に対し、6分過ぎ、下松工はGK坂田の好守から保科、岩田らの速攻で5点連取。これで波に乗った下松工が11－5と前半をリード。

後半、立ち上がりは市川のペースであったが下松工はあわてない。好調な田村、岩本のシュートなど

〔市川〕

	選手	得
GK	百瀬	0
FP	福田	4
FP	西谷	2
FP	猪野	2
FP	黒坂	1
FP	浜田	1
FP	今井	0
FP	松本	0
FP	小沼	0
FP	香月	0
FP	湯本	1
		11

〔審・岡本 中川〕

〔下松〕

	選手	得
GK	坂田	0
GK	亀山	0
FP	保科	7
FP	田村	3
FP	仲子	0
FP	原田	2
FP	石崎	0
FP	九十九	2
FP	山本	0
FP	佐藤	1
FP	渡部	0
FP	岩本	6
		21

で徐々に差を広げていく。結局、福田らが散発的に得点を決めるだけの市川を10点差で余裕をもって突き放し、下松工が2年ぶり3回目の優勝を決めた。

女子

1回戦

勝者	得点	前半	後半	得点	敗者
浦和実（埼玉）	24	13－0	11－1	1	高知東（高知）
新潟江南（新潟）	20	9－5	11－4	9	札幌月寒（北海道）
名短付（愛知）	28	16－3	12－6	9	彦根商（滋賀）
玉野光南（岡山）	22	13－7	9－5	12	群女短附（群馬）
日川（山梨）	19	12－6	7－4	10	鹿児島南（鹿児島）
青森中央（青森）	10	5－2	5－6	8	暁（三重）
屋代（長野）	21	12－7	9－13	20	富岡東（徳島）
熊本女商（熊本）	21	13－5	8－7	12	郡山女（福島）
コザ（沖縄）	23	9－9	14－8	17	大曲農（秋田）
洛北（京都）	27	14－5	13－6	11	高水（山口）
宮崎第一（宮崎）	17	8－5	9－5	10	境（鳥取）
文大附杉並（東京）	20	14－5	6－6	11	清水市商（静岡）
山陽女（広島）	15	9－7	6－7	14	添上（奈良）
栃木女（栃木）	19	12－4	7－6	10	今治北（愛媛）
川崎北（神奈川）	21	10－5	11－6	11	養老女商（岐阜）
高松商（香川）	20	9－7	11－8	15	大分東（大分）

2回戦

勝者	得点	スコア	得点	敗者
四天王寺（大阪）	18	8－5、10－6	11	浦和実
盛岡二（岩手）	25	11－5、14－2	7	新潟江南
名短付	28	16－7、12－9	16	小松商（石川）
玉野光南	19	7－9、8－6、1－0、3－0	15	神埼農（佐賀）
日川	23	13－5、10－6	11	浜田商（島根）
本庄（宮崎）	27	13－10、14－3	13	青森中央
屋代	21	11－11、10－9	20	那賀（和歌山）
昭和学院（千葉）	18	9－4、9－7	11	熊本女商
コザ	22	10－10、8－8、2－1、2－1	20	水海道二（茨城）
洛北	22	10－6、12－7	13	小杉（富山）
筑紫女学園（福岡）	22	10－5、12－6	11	宮崎第一
北村山（山形）	18	8－5、10－9	14	文大附杉並
山陽女	13	4－2、9－6	8	聖和学園（宮城）
栃木女	22	9－8、13－7	15	聖和女学院（長崎）

3回戦

勝者	得点	前半	後半	得点	敗者
川崎北	16	9－8	7－7	15	福井商（福井）
夙川学院（兵庫）	28	12－2	16－4	6	高松商
四天王寺	28	13－7	15－3	10	盛岡第二
名短付	33	19－3	14－1	4	玉野光南
本庄	24	14－3	10－7	10	日川
昭和学院	25	15－4	10－4	8	屋代
洛北	18	9－11	9－5	16	コザ
北村山	18	9－3	9－9	12	筑紫女学園
栃木女	15	8－6	7－3	9	山陽女
夙川学院	17	10－7	7－4	11	川崎北

準々決勝

勝者	得点	前半	後半	得点	敗者
名短付	24	12－8	12－4	12	四天王寺

〔戦評〕名短付が前半2分、梶田のフェイントからのシュートで先行、その後もきれのいいフェイントで相手ディフェンスをかわし得点を重ねた。四天王寺も田中、辻のステップシュートや平石のポストシュートで応戦したが、追いつけず、名短付のリードで前半を終了した。

後半開始直後2点を入れた四天

王寺が2点差まで追い上げ、接戦が予想されたが、そこから名短付が8連続得点し、試合の流れを自分たちの方へと引き寄せた。

得	〔名短付〕		〔四天王〕	得
0	庵下	GK	富山	0
0	本間		吉川	0
8	梶田	FP	木村	0
5	山川		田中	7
0	中村		辻	2
1	安田		中嶋	0
0	黒木		中井	0
0	日下部		中山	1
0	兒丸		平石	2
8	児島		吉川	0
2	山本		若林	0
0	松下		安部	0
24				12

〔審・岡本 中川〕

夙川学院 15 〔7－2 8－4〕 6 栃木女

〔戦評〕速攻主体の速い攻めをする夙川に対しセットからの攻撃をする栃木女の対戦。前半は、夙川の速攻が冴え、着々と加点。一方栃木女は夙川の固いディフェンスに阻まれてなかなか得点できず前半を7－2と夙川の5点リードで終了する。

後半に入っても試合展開は変らず、夙川の勝利に終った。

得	〔夙川〕		〔栃木〕	得
0	中井	GK	渡辺	0
0	西川		安形	0
0	松本	FP	石田	3
2	大井		増田	0
0	小山		松山	0
1	中尾		高橋	0
1	小畑		柴田	0
5	小杉		青木	1
3	川端		山口	0
2	市岡		山岸	0
1	益田		佐藤	2
0	藤浦		小口	0
15				6

〔審・田所 増田〕

昭和学院 20 〔15－4 5－11〕 15 本庄

〔戦評〕昭和は速いボール回しから星の豪快なロングやポストシュートで確実に加点する。それに対し本庄は固さが見られ、シュートをバーに当てたり、ラインクロスなどのミスを連発し、なかなかペースをつかめず、15分に4点目を入れて4－6としてからは前半得点できなくなってしまった。その間、昭和はミスの少ないプレーで差を広げ、15－4で前半を終えた。

後半、昭和はペースダウンするところを本庄は猛追撃した。しかし、前半の点差が大きく、20－15で昭和が勝利を収めた。

得	〔昭和〕		〔本庄〕	得
0	佐藤	GK	三木	0
0	岩井		荒木	0
2	嶋本	FP	中畑	3
0	福田		井上	0
5	星		山下	0
3	小谷		川崎	1
0	川口		赤木	0
0	手塚		畠中	2
5	細井		大生	3
0	梅沢		杢元	0
3	阿部		広瀬	4
2	増田		鬼塚	2
20				15

〔審・新藤 森山〕

北村山 14 〔7－8 7－5〕 13 洛北

〔戦評〕序盤から両者一歩も譲らず、1点を争う好ゲームとなった。北村山は細谷のロングなどで常にリードをしていた。しかし、前半の終盤、洛北・辻の3連続のロングシュートやポストシュートで逆転し、8－7で前半を終えた。

後半も両者取りつ取られつの展開が続き、残り2分のところで北村山に退場が出たところを洛北がポストシュートを決めた。残り1分、北村山に再び退場者が出て4人になったが、残り20秒、洛北のパスを高橋がカットし、決勝のシュートを決めた。

得	〔北村山〕		〔洛北〕	得
0	柴田	GK	北山	0
0	遠藤		藪原	0
2	石井	FP	硲	1
0	戸村		三上	0
0	渡辺		平井	0
3	高橋		辻	8
0	工藤		西脇	0
4	阿部		松岡	0
0	元木		橋本	0
4	細谷		木村	3
0	川越		田中	1
1	芳賀		岸本	0
14				13

〔審・中村 松村〕

準決勝

名短付 17 〔11－4 6－6〕 10 昭和学院

〔戦評〕開始4分までにエース星の2本のロングで好調に滑り出した昭和だが、その後15分間、攻撃を先読みした相手ディフェンスとGKの好守にあい無得点。その間、主将・梶田のカットイン、児島の速攻からロングなどで9連取した名短付が前半を11－4とリード。

後半は両チームとも一進一退の攻防をくり返す。細井のポスト、増田のサイドで追い上げを図りたい昭和だが、要所で山川らのシュートが決まる名短付との差が縮まらない。結局、前半のリードを守った名短付が勝ち進んだ。

得	〔名短付〕		〔昭和〕	得
0	庵下	GK	佐藤	0
0	本間		岩井	0
5	梶田	FP	嶋本	0
4	山川		袴田	0
0	中村		太子	0
1	安田		星	4
2	黒木		小谷	1
1	日下部		川口	0
0	兒丸		細井	3
4	児島		梅沢	0
0	山本		阿部	0
0	松下		増田	0
17				8

〔審・松村 中村〕

夙川学院 22 〔11－3 11－9〕 12 北村山

〔戦評〕立ち上がりからスピードある展開で攻める両チーム。北村山は速いボール回しからの攻撃を試みるが、夙川のGK中井を中心としたフットワークの良いディフェンスにあい、川越、石井の3得点のみ。一方夙川は、松本がカットインで先制すると大井のロングや市岡の3連続ゴール、小杉のサイドシュートなどで着実に得点、11－3で夙川がリードのまま前半を終了。

後半に入って北村山は阿部など

得	〔夙川〕		〔北村山〕	得
0	中井	GK	柴田	0
0	西川		遠藤	0
2	松本	FP	石井	3
3	大井		戸村	0
0	小山		渡辺	0
2	中尾		高橋	0
3	小畑		工藤	0
5	小杉		阿部	5
0	川端		元木	0
5	市岡		細谷	1
0	田村		川越	2
2	益田		芳賀	1
22				12

〔審・中川 黒木〕

のシュートで必死に食い下がるが、夙川は前半のリードを生かし試合を展開、22―12で勝利を収めた。

決勝

名短付 22 〔12―10／10―11〕 21 夙川学院

〔戦評〕前半開始2分、大井のカットインシュートで夙川がまず先制するが、名短付もすぐに梶田のロングシュートで取り返し、その後は名短付が山川や児島のロングなどで得点をあげれば、夙川も市岡のカットインや大井のロングを中心に得点をあげ、両チームとも一進一退の攻防をくり返し、手に汗を握る展開となった。前半は12―10と名短付の2点リードで終了。

後半になり、開始5分で夙川は同点に追いつくものの名短付がジリジリと点差を広げ、残り10分には5点差まで広がる。しかし、ここから夙川は執念の反撃を見せ、残り4分のところでまたまた同点とした。その後、名短付がPTと児島のロングで2点差とするが、夙川も小杉のサイドシュートで1点差と詰め寄る。残り10秒で夙川・大井のフリースローからのシュートは無情にもゴールのバーに当たり22―21で名短付が優勝を飾った。

〔夙川〕	得		〔名短付〕	得
中井	0	GK	庵下	0
西川	0	GK	本間	0
松本	1	FP	梶田	7
大井	8	FP	小山	4
小山	0	FP	中村	0
中尾	6	FP	安田	2
小畑	1	FP	黒木	3
小杉	2	FP	日下部	0
川端	1	FP	兒丸	0
市岡	2	FP	児島	5
田村	0	FP	山本	1
益田	0	FP	松下	0
	21			22

〔審・浜田・小笠原〕

平成4年度全国高校総体を終えて

高城町実行委員会

4日の開始式は台風9号に見舞われ、体育館での式典実施となり、選手・監督や役員・補助員2、000人以上の人波に館内全体熱気に包まれながらも無事終了し一日目の難関を乗り切った所で、残り6日間に不安が湧き出すスタートであった。

競技そのものは、多目的広場6面にて順調に滑り出し、各チームからすばらしい競技コートとの評価をいただき、事務局として気づかってきたコート仕上がりが順調な出来具合にホッとし、努力が報われて満足した気持ちになった。

2日目までは天候に恵まれたが、競技3日目またしても台風10号の影響を受け第4試合目はコート状態も悪くなり、コートに砂をまきながらのゲームであり選手諸君の日頃の実力が発揮できただろうかと心配した。運営側としては、4コート分までの試合消化ができて一安心の所ではあったが。試合終了後、台風の接近の恐れの為、競技会場の撤収を余儀なくされ、急遽、役員・補助員全員にてテント・机・フラワーポット・競技用具一切のものを短時間にて整理し終えなければならず、忙しさに追われた一日であった。

夕方の段階で明日の態度決定を行い各チームへの連絡並びに役員・補助員への電話対応に2本の事務局電話はパンク寸前の状態であった。明け方になって台風は日向灘沖を北上しており、大会開催に悪影響が出、他の種目によっては中止の判断を下さざるを得ない状況にあった。ハンドボールも午前中移動困難の判断のもとチームは宿舎待機をお願いし快く協力していただいた。

午前10時頃、台風の影響で薄らぐ時点で、14時競技開始の決定のもと、各係準備に入ったが、補助員は、安全面の配慮から自宅待機の決定のもと、役員のみにて2会場8試合のゲームに臨んだ。心配された事故もなく、試合消化できて、台風一過の青空と同様、晴れ晴れした気持ちになった。

準決勝・決勝は、予定通り高城町総合体育館で実施でき、準決勝においては、好試合が展開されハンドボールの魅力に観衆が引き込まれこの地におけるハンドボール競技の啓蒙に多いに貢献してくれた。8月4日全日本男子の公開練習が行われ、選手諸君には大きなプレゼントとなり、将来の全日本を背負う高校生の大会としては意義深いセレモニーであり、関係者の皆様に心より感謝申し上げたい。

大会7日間の開催が終了し、あわただしい競技日程、高校生のはつらつとした試合展開等を考え合わせると、昭和62年以来会場地として取り組んできた諸業務が、泡のごとく消え去り努力してきた日時がすがすがしさに変わったような気持ちになった。思えば、本大会開催3年前には、全国大会の全体像なりが何も分からず、ただ競技会が高城町にて実施されるはずであるという傍観者的立場でしか考えられなかった。県実行委員会や県高体連専門部の業務が推進されるようになり始めて、本町の取組みも一層充実してきた。未知のスポーツ種目であり、全国大会も初めての試みである本町において、実行委員会組織系統づくりから、役員配置はもちろん業務依頼から大変な仕事であったが、今大会を終わってみて町役場職員の方々の献身的とも思える協力体制に深く感銘し、県協会、県高体連専門部の方々と一致協力して大会運営に当たることが出来、この大会誘致の意味が良く理解できました。全国高体連、日本ハンドボール協会、県推進室の関係者の御指導に心から感謝を申し上げ、報告とします。

インターハイを終了して

全国高体連ハンドボール部部長　須藤健児

　略称で人口に膾炙している名称ですが、正式名は、平成4年度全国高等学校総合体育大会、高松宮賜杯　高松宮妃賜杯　第43回全日本高等学校ハンドボール選手権大会と呼びます。平成4年8月4日～10日の7日間、宮崎県高城町、総合運動公園を中心に競技が実施された。一万三千余名の町ですので、大会役員、審判員以外の選手諸君のほとんどすべては都城市、霧島方面の宿舎から競技場へバス輸送等ではせ参じました。

　会場となった高城町は、緑に恵まれた大自然の中で、特に夜空、星空の美しい町として有名な所であります。記録とか戦績結果は、別の面より報告があると思うので、日誌的に、順を追って報告致します。

◎8月4日(火)、第1日目。
開始式（17時）

　台風9号の影響により、一日中雨。開始式は高城町運動公園体育館と決定する。この日は、12時半⬇審判研修会、ビデオを使用す。14時⬇審判会議。15時⬇監督・主将会議。17時⬇開始式。各チーム参加選手5名。プラカードのみ。フロアーは選手で埋め尽され、観覧席も満杯。むし暑いだけで無く、選手の熱気も感じられる。日本ハンドボール協会、渡辺副会長も参列し挨拶をいただく。一人一役運動を展開した、地元高城高校生が丹精して作り上げた千羽鶴が参加全チームに贈呈され、すがすがしい気持になる。

◎8月5日(水)、競技1日目
屋外コート6面

　昨日一日中、雨なるも地元実行委員会の絶大なる尽力により、6面、全コートに余裕をもって、ビニールシートを被せ保全に努めた結果、時程通り、予定通り、すべての試合を消化する。したがって、大会気分は大いに盛り上がる。16時⬇全国都道府県専門委員長と常任委員を含めて定例委員会を開催。会議内容盛り沢山で18時20分終了す。19時⬇星原一夫町長主催に依るレセプション。地元の方々と交歓、意気投合して地酒を美味しく賞味する。

◎8月6日(木)、競技2日目
屋外コート6面

　この日は会議等無く、予定通り試合を無事消化する。全国高体連理事長、金原達人校長をはじめ、県教委の方々、視察員や協会の方々本部席に立寄り懇談する。また、埼玉・浦和学院、大阪・四天王寺高の監督と、日韓交流試合に就いて、原事務局長を含めて、打合せを行ない意志疎通を図る。

◎8月7日(金)、競技3日目
屋外コート4面

　台風10号の影響が現われて次第に雲行きが怪しくなる。第3試合の後半、13時頃より時々降雨。最終の第4試合、13時半試合開始。後半に入ってからコート稍々ぬかるんで砂を入れる。まあまあのグランド・コンディションで、時程通り、競技を無事終了す。大会関係者ホッと安堵の胸を撫でおろす。

◎8月8日(土)、競技4日目
体育館2面

　昨夜来の台風で、風雨強く、水害こそなかったが風倒木が目立つ。したがって、男子は高城町体育館にて4試合。女子は都城体育文化センター体育館にて4試合を消化。競技開始を10時⬇14時にする。2会場になった為、勢力は分散されたが運営的には何の支障も生ぜず、円滑に実施された。開始時間を遅らせたのは、県大会本部からの指示と道路状況のチェックと交通規制があったからである。

◎8月9日(日)、競技5日目
高城体育館1面

　男女共準決勝。4試合のみ。随所に好プレーを展開。試合終了後、3位表彰式を行なう。女⬇千葉、昭和学院と山形、北村山高。男⬇大阪、桃山学院と熊本市立商業高である。

◎8月10日(月)、競技6日目
高城体育館1面

　男女決勝。2試合のみ。試合終了後、直ちに閉会式を行なう。優勝⬇山口、下松工業高、名短大附属高。準優勝⬇千葉、市川高と、夙川学院。日夜精進を重ねたチームに対して深甚なる敬意を表したい。最後に、本大会に多大なる御尽力をいただきました関係各位に対して、心から深く御礼申し上げ擱筆する。

第35回全日本教職員ハンドボール選手権大会

香川が昨年の雪辱を果たす

男子

1回戦

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
スワロー兵庫	35	20－9	15－14	23	徳島県教員
広島県教員団	27	13－7	14－6	13	ATF（愛知）
石川教員A	23	10－10	13－12	22	北送会（長崎）
岡山教員	25	11－9	14－8	17	神奈川教員団B
岩手教員団B	45	20－2	25－1	3	SAS（岡山）
滋賀教員	25	16－10	9－9	19	静岡県教員団
長野教員	20	11－6	9－11	17	愛媛教員クラブB
山口県教員団A	28	10－8	18－11	19	愛知教員B
高知クラブ	31	14－2	17－7	9	鹿野クラブ（奈良）
福島教員	31	14－11	17－6	17	岡山桃太郎クラブ
熊本教員クラブ	43	21－5	22－9	14	和歌山クラブ
愛媛教員クラブA	39	22－4	17－8	12	福井教員
知多教員ク（愛知）	22	13－7	9－8	15	山口教員団B

2回戦

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
わかくさク（奈良）	31	15－15	16－12	27	宮城教員
イガヤク（愛知）	33	16－6	17－10	16	愛媛教員クラブC
千葉教員	30	19－8	11－10	18	石川教員B
京都教員鴨川ク	19	10－9	9－9	18	東京教員
佐賀教員葉隠	25	11－6	14－10	16	美作クラブ（岡山）
京都教員クラブ	33	15－6	18－10	16	スワロー兵庫
埼玉教員クラブ	24	14－6	10－12	18	広島県教員団
岐阜教員	26	10－5	16－8	13	石川教員A
東根クラブ（山形）	27	18－4	9－1	5	岡山教員
栃の葉ク（栃木）	28	14－4	14－10	14	岩手教員団B
滋賀教員	23	9－9	14－7	16	長野教員
山口教員団A	27	11－8	16－5	13	あかぎク（群馬）
福岡教員	25	14－3	11－7	10	高知クラブ

3回戦

チーム	得点	前半	後半	延長	延長	得点	チーム
愛知教員A	28	15－7	13－8			15	福島教員
埼玉ライオンズ	28	10－13	11－8	3－1	4－3	25	熊本教員クラブ
愛媛教員クラブA	32	17－3	15－5			8	知多教員ク（愛知）
わかくさク	25	11－11	14－12			23	沖縄教員
岩手教員団A	31	15－10	16－11			21	イガヤ・クラブ
千葉教員	29	17－5	12－7			12	岡山白桃クラブ
京都教員鴨川ク	27	12－9	15－11			20	三重教員
京都教員クラブ	22	10－8	12－7			15	埼玉教員クラブ
東根クラブ	24	10－9	14－7			16	岐阜教員
栃の葉ク	29	14－5	15－9			14	滋賀教員
山口県教員団A	32	17－8	15－9			17	福岡教員
愛知教員A	28	15－8	13－11			19	埼玉ライオンズ
わかくさク	22	12－9	10－11			20	愛媛教員クラブA

4回戦

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
岩手教員団A	24	9－11	15－10	21	千葉教員
香川県教員チーム	39	21－3	18－10	13	京都教員鴨川ク
京都教員クラブ	20	11－9	9－10	19	東根クラブ
山口教員団A	22	11－8	11－10	18	栃の葉ク
愛知教員A	25	11－7	14－13	20	わかくさク
香川県教員チーム	41	22－9	19－10	19	岩手教員団A

準決勝

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
京都教員クラブ	26	12－3	14－12	15	山口教員団A

〔戦評〕4分過ぎ、山口のシュートミスから楠本の速攻で京都、山口ともに動きが良くなり、スピーディな展開になった。京都はGK山下を中心とした堅い守りで逆速攻へともっていくが、シュートミスがあるためいまひとつ山口を突き放すことができない。山口はセットプレーで粘りはするが、京都の堅いディフェンスを攻めきれない。

15分過ぎから山口のシュートミスが目立ち、京都はそのミスを楠本、西村とすばらしい早さのワンマン速攻へともっていき、山口を引き離しにかかる。その後も速攻、セットプレーと多彩なプレーで京都の一方的な試合になった。

〔山口〕

区分	選手	得
GK	古谷	0
FP	飯島	4
	橋本	2
	倉谷	1
	角	4
	白川	1
	原井	1
	和田	1
	村田	0
	中村	0
	梅本	1
計		15

〔審・武智、松原〕

得〔京都〕

区分	選手	得
GK	山下	0
	咲本	0
FP	国府	1
	佐久間	3
	楠本	8
	池辺	2
	西田	2
	西村	3
	加藤	3
	清水	0
	井上	2
	中島	2
計		26

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
香川県教員チーム	28	16－8	12－8	16	愛知教員A

〔戦評〕立ち上がり、香川は河合のカットイン、後藤のミドルシュート等により7点を連取し、主導権を握った。愛知は香川の堅いディフェンスを崩そうとするが、GK大谷の好キープもあり、なかなか得点することができなかった。前半は立ち上がりの得点差を生かし香川が16－8とリードした。

後半の立ち上がりも香川が速攻、カットイン等により前半同様立ち上がりで主導権を握った。愛知もセットプレーで得点するが、思わぬ大差で香川が勝利を収めた。

〔愛知〕

区分	選手	得
GK	本地	0
	河合	0
FP	岩田	0
	徳永	0
	浅井	0
	岩本	0
	岩本	5
	鈴木	1
	久保田	1
	加藤	5
	疋田	3
	小鳥居	1
計		16

〔審・竹村、坂井〕

得〔香川〕

区分	選手	得
GK	高木	0
	大谷	0
FP	加藤	3
	後井	0
	後藤	8
	田中	6
	渡辺	0
	亀井	1
	河合	5
	高島	1
	竹内	4
	泉谷	0
計		28

3位決定戦

愛知教員A 16（7－9、9－5）14 山口教員団A

〔戦評〕両チームともよく動き、好調な滑り出しを見せる。しかしシュートが甘く、ロースコアーの展開。山口Aがややリードの形で試合が進むが、15分過ぎ愛知が岩本のミドルシュートなどで3点連取し逆転する。しかし、ここで山口Aが踏んばり4連取で再逆転、前半を9－7で終える。

後半、愛知が出だしに勝負を賭けた感じでスパート。10分過ぎに再々逆転し、そのまま逃げ切った。

〔山口〕	得
GK 古谷	0
FP 飯島	0
橋本	2
倉谷	0
角	7
白川	1
原井	2
和田	0
村田	0
中村	0
梅本	2
計	14

審・多田・杉山

得	〔愛知〕
0	GK 本地
0	河合
0	FP 岩田
0	徳永
1	浅井
1	岩本
6	岩本
1	鈴木
4	久保田
1	加藤
0	疋田
2	小鳥居
16	計

決勝

香川県教員チーム 25（11－12、14－7）19 京都教員クラブ

〔戦評〕立ち上がり両チームともエースのシュートにより得点。京都は高いディフェンスより速攻、多彩な攻めで15分過ぎに5点差とする。香川は堅い守りに阻まれ得点ができない。15分過ぎより京都・楠本にマンツーマン・ディフェンスをつけ、自分たちのペースを取り戻して5点を連取、前半を1点差で折り返す。

後半に入ってもマンツーマン・ディフェンスをやめず、自分たちのペースを守った香川は、16分過ぎに逆転、GK大谷の好守もあり24分過ぎには4点差をつけ京都をふり切った。

〔京都〕	得
GK 山下	0
咲本	0
FP 国府	4
佐久間	6
楠本	4
池辺	0
西田	1
西村	2
加藤	2
清水	0
井上	0
中島	0
計	19

審・松原・武智

得	〔香川〕
0	GK 高木
0	大谷
2	FP 加藤
0	後井
4	後藤
8	田中
0	渡辺
4	亀井
4	河合
3	高畠
0	竹内
0	泉谷
25	計

女子

1回戦

- 千葉クラブ 14（8－5、6－4）9 岩手教員
- 山口クラブ（棄権）鹿児島クラブ

2回戦

- 京都教員 20（10－4、10－7）11 千葉クラブ
- 愛知教員Wins 33（18－5、15－7）12 長崎クラブ
- 岡山虹の会 17（10－8、7－5）13 茨苑クラブ（茨城）
- 埼玉教員白小鳩 21（11－4、10－10）14 愛媛教員
- 福島教員（棄権）栃の葉女子（栃木）
- 香川教員 28（14－2、14－5）7 岐阜教員
- 兵庫教員風見鶏ク 26（16－4、10－5）9 群馬教員クラブ
- 神奈川教員チーム 23（13－6、10－7）13 山口クラブ

3回戦

- 京都教員 23（13－9、10－8）17 愛知教員Wins
- 埼玉教員白小鳩 33（12－6、21－3）9 岡山虹の会
- 香川教員 23（9－6、14－6）12 福島教員
- 神奈川教員チーム 18（10－6、8－8）14 兵庫教員風見鶏ク

準決勝

- 京都教員 19（5－4、14－7）11 埼玉教員白小鳩
- 香川教員 18（9－3、9－5）8 神奈川教員チーム

3位決定戦

埼玉教員白小鳩 17（10－8、7－9、3PTC2）17 神奈川教員チーム

〔戦評〕立ち上がりから両チームともPT、ノーマークシュートをはずすなど決定力不足でロースコアーゲームの様相。15分を過ぎたあたりからエンジンがかかりはじめ、埼玉は百瀬－稲垣のスカイ、神奈川は井上の速攻2連取などが決まり、前半は神奈川の1点リードで終了。

後半、神奈川は小暮のミドル、カットインで3点差とするが、埼玉も粘り、百瀬のポスト、野尻、百瀬の速攻で3点連取、同点とする。その後、神奈川・根岸、埼玉・中野両GKの好守で一進一退、ゲームは終盤へ。残り2分、田島の速攻で埼玉が追いつき、後半を終了、同点のままPTCへ。

PTCで3人目が両チームともはずしサドンデスへ。4人目神奈川・児玉のシュートを埼玉GK根岸がシャットアウトしゲーム終了。

〔神奈川〕	得
GK 中野	0
FP 井上	2
小池	0
大久保	1
八尾	3
高倉	0
小暮	2
植松	0
児玉	7
柳原	2
計	17

審・多田・杉山

得	〔埼玉〕
0	GK 根岸
0	服部
2	FP 田島
1	石井
5	稲垣
1	内田
3	百瀬
1	相沢
4	野尻
0	新藤
0	浅田
17	計

決勝

京都教員 17（9－5、8－8）13 香川教員

〔戦評〕雨中の決勝戦、先制は京都・楠本のロング。香川も藤沢の速攻で返す。京都はGK山本の好

第35回全日本教職員選手権を終えて

　キーピングからの速攻、香川のパスミスをマイボールにしての速攻が冴え、前半を4点リードで折り返した。
　後半に入っても香川のディフェンスコンビが合わないところをしつこく1対1で攻める京都が着実に加点していく。逆に香川はセットでのフローターとポストを京都ディフェンスにうまく分断され、なかなか点差が縮まらない。加えて速攻でのコンビが合わないところを逆速攻をかけられるなど今ひとつの出来。結局、前半の4点差を守った京都の快勝であった。

〔香川〕	得		〔京都〕	得
福井	0	GK	山本	0
		GK	松永	0
笠中	2	FP	矢野	1
河野	2	FP	池上	3
末佐	2	FP	中尾	1
西村	4	FP	楠本	6
藤沢	1	FP	小橋	1
宇野	2	FP	大槻	0
岡	0	FP	審	2
木村	0	FP	野村	0
		FP	多田	2
		FP	有山	1
	13			17

審・小林ま　小林き

　第35回全日本教職員ハンドボール選手権大会は8月9日から13日まで第48回国民体育大会ハンドボール競技リハーサル大会として、男子高松市、女子綾上町で開催された。
　大会に先立って8日研究発表会、35周年記念式典が行われた。

〔研究発表会〕

　研究発表は16回であるが今回から名称を日本ハンドボール指導者研究会と改称することになった。
　一題目発表と質疑応答で10分という短いものであったが、熱心に取り組んだ研究会であった。今回の発表は次の通りである。

一、足痛について

大阪・岡本克彦氏

　この発表は、ハンドボールに関する傷害に関する継続発表で、氏が実際に治療する立場から専門的な見解から足痛の起こり、応急処置について発表した。

二、技術指導体系の一貫化について

茨城・大西武三氏

　諸外国特に韓国の選手養成についての指導体系とわが国の選手養成の根本的相違は、指導体系が小・中・高・大学と一貫していないことにあることを指摘し、その指導体系の一貫性についての私見を発表した。

三、小学生の発達を考えたハンドボール指導について

愛知・鵜飼克博氏

　小学生の身体適性の発達過程に即応したハンドボールの指導は、どのような技能を指導したらよいか。学年別の段階指導について発表した。

四、世界各国の攻撃防御に対する概念

東京・笹倉清則氏

　世界選手権大会のゲーム展開をビデオから攻撃・防御面を分析して、その傾向から概念を汲み取ったものを図を交えて発表した。
（なお、中学生のハンドボール指導について、栃木・鈴木敬子氏の発表が予定されていたが、台風の余波で出席されなかった。）

〔35周年式典〕

　35周年記念式典は香川県ハンドボール協会の協力を得て、8日行われた。会員、連盟関係者ほか、国体の開催地ということもあり、高松市長はじめ関係者多数の来賓の参加を得、総勢二百人を越える参会者をえて盛大に開催することができた。
　式典の始めに前会長故山田計氏ほか連盟協力関係者に感謝状、記念品の贈呈を行った。

〔選手権大会〕

　台風の関係で女子1チームが参加できなかったことは残念であった。
　男子は高松市市民文化センター、高松工芸高校体育館・グラウンドの4コートで、50チームによるトーナメントで行われた。戦績は後述。
　決勝戦は奇しくも、昨年と同じ京都対香川の顔合わせになったが地元の利と、作戦によって、香川教員が雪辱初優勝した。
　女子は、綾上町ふれあい公園で18チームによるトーナメントで行われたが、グラウンドだけであったので天候に苦慮される場があった。戦績は後述。
　決勝戦は男子と同じ京都対香川の対戦となったが京都に一日の長があり、京都の快勝に終わった。京都教員の6連覇は賞賛にあたいしよう。
　決勝戦の審判が女子の姉妹コンビであったことは女子選手の将来への励みになったのではなかろうか。
　大会を振り返って、出場のメンバーに、親子、兄弟（姉妹）さらに夫婦の選手、役員が数多く見られた。誠に微笑ましく教職員大会の年々充実する一因ではないかと思われた。
　本大会が国体のリハーサルであることから、開閉会式に知事、市長他多数の名士の参列をえて、華ばなしく行われたこと、大会の諸運営に尽力いただいた香川県ハンドボール協会、国体事務局の諸氏に感謝の意を捧げて止まない。

第19回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会

明石が8年ぶり8回目の優勝

第19回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会は、8月22日、東京・千駄ヶ谷の東京体育館に、各地区予選を勝ち抜いた12代表チームの監督・選手ら約300人が集まって開会式を行い、2日間にわたる熱戦の幕を開けた。

大会は、初日に予選リーグが行われ、各試合とも実力伯仲の好試合が展開された。2日目の決勝トーナメントには、4年連続16回目の出場で、最多出場回数を誇る明石高専（近畿地区代表）、抜群のチームワークと速攻が冴える石川高専（東海北陸地区代表）、大会史上初の3連覇をめざす大阪府立高専（近畿地区代表）、多彩なセットオフェンスが定評の昨年度の準優勝校・八代高専（九州地区代表）が激戦を勝ち抜き出場した。

決勝戦は初優勝をめざす石川高専と、8年ぶり8回目の優勝をめざす明石高専との対決となった。両キーパーの好守で緊迫したゲーム展開となったが、前半のリードを守りきった明石高専が、猛追する石川高専を振り切り、高専ハンドの頂点に立ち、感動のフィナーレを飾った。

夏の高専大会は、全国62高専を対象として実施される、高専生にとっては唯一の公式大会であり、1年間充電し続けてきたハンドボールへの思いを一気に爆発させる貴重な機会でもある。

選手たちは、この大会を通して、存分にハンドボールの楽しさを実感し、互いの健闘をたたえ、友情を深め、来夏への意欲をまた高めていく。勝っても負けても全力を出し切った選手たちのすがすがしい表情は、一陣の涼風が過ぎ去ったような爽やかさを会場に残し、熱戦を繰り広げた高専大会の幕は閉じた。

▼予選リーグ1

	得点	前半	後半	得点	
石川	19	8－7	11－5	12	沼津
石川	28	16－6	12－10	16	徳山
沼津	26	12－10	14－11	21	徳山

〔順位〕①石川②沼津③徳山

▼予選リーグ2

	得点	前半	後半	得点	
長岡	26	11－9	15－10	19	都城
大阪府立	24	11－3	13－11	14	都城
大阪府立	22	13－11	9－8	19	長岡

〔順位〕①大阪府立②長岡③都城

▼予選リーグ3

	得点	前半	後半	得点	
八代	22	10－6	12－12	18	東京
八代	21	10－11	11－9	20	豊田
東京	22	9－7	13－7	14	豊田

〔順位〕①八代②東京③豊田

▼予選リーグ4

	得点	前半	後半	得点	
明石	22	15－5	7－9	14	呉
明石	29	19－7	10－11	18	秋田
呉	23	10－10	13－9	19	秋田

〔順位〕①明石②呉③秋田

準決勝

	得点	前半	後半	得点	
明石	**27**	**15－9**	**12－12**	**21**	**八代**

〔戦評〕序盤は、八代・曲野がロングシュートを決めれば、明石・松野がロングシュートで取り返す点の取り合いだった。中盤になり、明石のディフェンスは運動量が多くなり、八代のやや単発になりがちな攻撃を止め、終盤になると、手渡しパスや、パスフェイントから、八代のディフェンスを崩し点差を広げた。八代も必死に反撃し、セットプレーでは互角であったが、明石の速攻に対し帰陣が遅く、前半のリードを許してしまった。

後半特に目だったのは、明石のGK谷口の好キーピングからの球出しからの速攻で、八代も個人技の冴えを見せるが、守備力、運動量は明石の方が上回っており、前半のリードをそのまま守った明石が逃げきった。

	得点	前半	後半	得点	
石川	**18**	**11－9**	**7－3**	**12**	**大阪**

〔戦評〕大阪が川口、細川を中心とした攻めで2点を先行し、大阪優位の試合展開と思われたが、石川もすぐに追いつき、15分くらいまで一進一退の攻防が続いた。しかし、両チームともオーバーステップ等のミスが多く今一つリズムに乗り切れない。終盤、石川は助田の連続得点でリードし、守っては大阪のフローター陣を孤立させるうまい守りを見せ、前半を終了した。

後半開始から、石川の固いディフェンスで大阪は攻め切れずミスが多発。一方石川は、速攻、カットイン、サイドへのずらしで着実に点差を広げ、一時6点まで差を広げた。大阪も20分過ぎ、GK内野の好守から3連続得点をあげるが、反撃もここまで、石川が決勝への切符を手にした。

決勝

	得点	前半	後半	得点	
明石	**18**	**10－6**	**8－10**	**16**	**石川**

〔戦評〕まず明石が、ずらしからのサイドシュートで先制すると、石川も負けじと不破のカットインで同点とし、さらにGK出口の好守で明石の速攻をシャットアウト。ロースコアーのまま前半も終盤となる。しかし、石川が不正交代で退場の間に、明石は住田らの得点でリードを広げ、前半を4点差で折り返す。

後半は、石川は持ち前の速攻で明石に食い下がろうとするが、再三にわたり明石のGK谷口の好守にあい、なかなか点差が縮まらない。一方の明石も、石川・出口のキーピングに攻めあぐむ。19分あたりから石川は速攻で猛追し、3連続得点とたたみかけるが、固い守りとGKの好守で明石が終始リードを守り、結局2点差で、追いすがる石川を押さえ全国優勝を成し遂げた。

〔明石〕	得		〔石川〕	得
谷口	0	GK	出口	0
井原	0	GK	上馬	0
住田	5	FP	多賀	0
松野	2	FP	道端	3
阿部	0	FP	田中	0
辻本	4	FP	助田	3
藤井	0	FP	北田	1
山脇	3	FP	不破	5
大城	3	FP	池上	1
藤原	0	FP	川端	0
江草	1	FP	宮下	3
永井	0	FP	塩谷	0
	18			16

〔審・後藤 島田〕

第21回全国中学校ハンドボール大会

浜寺（男子）、大東（女子）に栄冠

男子

1回戦

チーム	得点	スコア	得点	チーム
板津（石川）	20	7-7, 13-8	15	北川（宮崎）
南八下（大阪）	17	8-6, 9-10	16	大島（東京）
光陽（福井）	21	8-6, 13-7	13	桜丘（岐阜）
綾南（香川）	20	7-6, 13-5	11	総社西（岡山）
浜寺（大阪）	17	8-9, 9-7	16	妙典（千葉）
楠（愛知）	20	7-10, 9-6, 2-2, 2-1	19	志貴野（富山）
凌雲（北海道）	21	11-8, 10-10	18	東根一（山形）
下松（山口）	20	9-7, 7-9, 3-3, 1-1, 2PTC1	20	松橋（熊本）

2回戦

チーム	得点	スコア	得点	チーム
南八下	23	13-5, 10-12	17	板津
光陽	13	6-5, 7-7	12	綾南
浜寺	14	5-4, 9-7	11	楠
下松	15	5-7, 7-5, 2-2, 3-2	16	凌雲

準決勝

チーム	得点	スコア	得点	チーム
南八下	20	8-8, 12-7	15	光陽
浜寺	27	11-4, 16-5	9	下松

決勝

チーム	得点	スコア	得点	チーム
浜寺	16	5-10, 11-5	15	南八下

女子

1回戦

チーム	得点	スコア	得点	チーム
水海道（茨城）	14	8-6, 6-5	11	末武（山口）
佐伊津（熊本）	15	10-5, 5-3	8	笹川（三重）
魚住東（兵庫）	23	14-5, 9-1	6	郡山一（福島）
大東（福井）	18	11-2, 7-1	3	紫雲（香川）
大島（東京）	14	7-5, 7-5	10	御幸（石川）
大浜（大阪）	22	12-7, 10-3	10	友泉（福岡）
光陽（福井）	26	13-2, 13-0	2	凌雲（北海道）
牧の池（愛知）	18	8-3, 10-6	9	富山（岡山）

2回戦

チーム	得点	スコア	得点	チーム
水海道	18	6-5, 6-7, 3-2, 3-1	15	佐伊津
大東	14	7-2, 7-1	3	魚住東
大島	16	8-6, 8-4	10	大浜
牧の池	22	10-6, 12-3	9	光陽

準決勝

チーム	得点	スコア	得点	チーム
大東	20	8-5, 12-6	11	佐伊津
大島	18	6-7, 12-7	14	牧の池

決勝

チーム	得点	スコア	得点	チーム
大東	12	4-2, 8-5	7	大島

第21回全国中学校大会を終えて

(財)日本中学校体育連盟
ハンドボール競技部長　真田　元

　平成4年度、中学生のチャンピオンチームを目ざし、第21回全国中学校ハンドボール大会は8月19日、福井市の福井県営体育館で「奇跡を呼べ、勝利をつかめ、感動の地福井で」をスローガンに全国9ブロックの代表、男子15チーム、女子15チーム及び開催地代表男女各1チーム、計男子16、女子16チームで日本中体連歌行進曲で開幕した。

　この大会は、(財)日本中体連（前身は全国中体連）が主催団体としての、全国9ブロック持ち廻り制度をとった最後のブロック開催である。

　本年度の福井大会は、福井県中体連を主体に実行委員会を構成し、大会運営の基本に中学生を位置づけ、特に開会式後の地元中学生が作った「千羽鶴」を参加各校へ激励をこめてわたす姿や、受付・案内で元気よいあいさつ、記録報道で手ぎわよくプリントアウトされた速報、など随所に「中学生の手による、中学生の大会」が見られたことは、昨年の大会とは一味ちがうものになったように感じられました。

　男・女30ゲームの中で特に印象に残るゲームをあげてみたいと思います。

　男子、石川県・板津中対宮崎県・北川中は、板津中のスピードあふれる攻防と北川中の180cm台2名の戦いであった。終始スピードに乗った攻防をくり広げた板津中が逃げきった。

　同じく富山県・志貴野中対愛知県・楠中戦は、よくきたえられたチームで、ゲームはこびもミドルシュート、早いパスワークからサイドシュート、2次速攻と多彩な攻撃と、手堅いディフェンス力が見られた。

　同じく山口県・下松中対熊本県・松橋中戦は、前年度優勝・松橋中が今年はどんなゲームを見せてくれるか興味のある所であった。

　下松中が気迫あふれる、スピードに乗ったプレーを見せ、一方松橋中は、池川君を中心にミドルシュート、サイドシュートと多彩な攻撃を見せてくれた。ゲームは第一延長でも決着がつかず、下松中

がＰＴＣでからくも勝利を手にした。

男子、北海道・凌雲中は、８月上旬、京都田辺市で開催されている全国小学生大会に出場した生徒を中心にチームづくりがなされたと聞く。今後楽しみなチームである。

男子決勝は、近畿ブロック・大阪代表の２校によって争われた。同一都道府県チームによる決勝は初めてのケースであり、真のチャンピオン決定として妥当なものであろう。

ゲームは、浜寺中のディフェンスが固まらないうちに主動権をにぎり、10－5と南八下のリードで前半を折り返す。後半になっても南八下のスピードプレーはおとろえず、８分には14－8と差を広げた。だが８分過ぎからの浜寺中の集中攻撃が始まり、古賀君の速攻をかわきりに15分まで７連続得点とし、14－15と逆に１点リードをした。残り５分両チーム必死の防戦で得点は止まったまま、時間が経過する。残り30秒、浜寺中・古賀君の速攻が決まり、１点差で浜寺中が逃げ切った。両チームとも力量に差はなく、ゲームの流れを引きよせ、集中攻撃をかけたのが勝因であった。

女子は、ブロック大会以後成長著るしい茨城県・水海道中、大杉ＧＫ林さん、フローター、山下さんを軸にベンチワークのうまさに定評の愛知県・牧の池中、小柄ながらのスピードある攻守を展開する熊本県・佐伊津中、都会的センスあるプレーを見せる東京都・大島中が順当に勝ち上がった。

本大会、女子の優勝候補は、福井県・大東中が上げられていた。福井で全国大会開催が決まった時、学校をあげてチームづくりに取り組み、県外遠征試合等でことごとく勝ち抜いてきたと聞く、チームの平均身長１６１cmと近年にない大型であり、センターを守る１６７、１６６cmの大きな壁と、きたえぬかれたフットワークは超中学生チームで、攻撃力、守備力ともナンバーワンの印象をうけた。

攻撃力、守備力にものをいわせた福井県・大東中は、１回戦で香川県・紫雲中に18－3、２回戦、兵庫県・魚住東中に14－3と完勝。準決勝茨城県・水海道中戦は前半こそ８－５とされたが終ってみると20－11と相手を寄せつけない力強い勝ち方であった。

決勝は東京都・大島中との戦いであった。両チームとも決勝戦の重圧からか、固い動きで得点にならず、５分すぎまで２－１、10分まで４－２、その後得点なく、前半を４－２とロースコアで折り返した。後半すぐに４－４と追いつかれが、ディフェンスをたてなおした大東中が14分までに８得点と大島中をつきはなし、12－７と終ってみると、大東中の攻撃・守備力の安定感が際だったゲームであった。

３日間のゲームを通して、男子は、昨年のような超中学生クラスの選手は目につかなかったが、チームとしての総合力が一戦ごとに良くなる傾向があったように思う。これも日頃の練習で、中学生時代の個人と全体（チームとして）の関係をご指導いただいた成果ではないかと思う。ただ前半同点、または僅差で折り返しながら後半になって一方的に差がつくゲームが多く見られた。後半になってもとぎれない集中力、走力の必要性を感じた。

女子は、ブロックによって競技力に差があるように思う。ブロック大会のより一層の充実をし、どのブロックでも優勝できる力をつけてほしいものである。女子で興味深かったのが大島中等のポストの攻防であった。ポストで位置を取ってからパスを待つのではなく、フローターとのコンビネーションの移動ポストである。中学生にとっては、まだまだ研究余地のある技術であろうと思われる。

本大会も21回を数えるまでになり、学校体育・部活動を中心とした指導の先生方の熱意とチーム育成に精進されていることにあらためて敬意を表したいと思います。

また、保護者の応援も例年になく節度ある応援であり、ハーフタイム、ゲーム終了後の選手への気づかいなどは、親子のきづなが育くまれているのをあらためて感じとれる大会であったと思います。

最後になりましたが、本大会開催のためにご尽力いただきました関係機関、諸団体に厚くお礼申し上げる次第です。

来年、第22回奈良大会に期待を寄せて、総評としたいと思います。

バルセロナ・オリンピック視察報告

この成果をもとに アトランタへ

男子全日本チーム
監督　蒲生晴明

今回、バルセロナ・オリンピック視察に対しまして、日本協会の皆様のバックアップにより、勉強の場をいただきましたことをこの場をお借りしまして御礼申し上げます。

さて、バルセロナ・オリンピックは、東西の冷戦が終わってから初めて開催される世界の祭典になるものと期待されました。しかしながら、大会直前になって、ユーゴスラビアの民族紛争問題によりご承知のとおりの結果になり、ハンドボールもそのユーゴスラビアが出場できなくなったわけです。

私も、モントリオール、モスクワ(不参加)、ロサンゼルスの代表になったわけですが、3大会とも全世界が足並みが揃わず、大変残念に思っておりました。今回も同様の結果になり、いつになったら本当の全世界参加ができるのでしょうか……。

しかし、そのユーゴに変わって代替参加国として、男子・アイスランド、女子・ノルウェーが大会を盛り上げました。それも、7月23日に急遽正式出場が決まり、十分なトレーニングも積むことができないままの状態でのゲームにもかかわらず、女子のノルウェーが金メダル、男子のアイスランドが4位という大変良い結果でした。我々もこの結果は予想できませんでした。

とはいうものの、ゲーム結果は、男子は90年世界選手権大会決勝と同一カードで、予想通りスウェーデン対旧ソ連、女子については、88年ソウル・オリンピックの金銀対決となり、共に大熱戦の決勝戦でした。私も、視察とはいうものの十分にハンドボールを満喫して帰国しました。

以下、男子視察について、報告を取りまとめ、今後の強化におおいに役立てていきたいと思います。

1．男子参加国（12カ国）

表1参照。

2．対戦方法

(1)　予選ラウンド

ア．6カ国をA・B 2グループに区分。

イ．各グループ総当たりリーグ戦（各国5試合)。

ウ．各グループごとに順位決定。

エ．25%ルール適用。

(2)　決勝ラウンドおよび順位決定戦

各グループの順位により、下記のとおり決勝、準決勝、順位決定戦を実施。

［決勝、準決勝］

Aグループ1位 ┐
Bグループ2位 ┘ ┐
　　　　　　　　├ 優勝
Aグループ2位 ┐ ┘
Bグループ1位 ┘

※バルセロナ・オリンピックから準決勝を新設。従来はAグループ1位対Bグループ1位の決勝戦のみ。

［3位決定戦］

準決勝の敗戦国の対戦で決定。

［順位決定戦］

5－6位決定戦

Aグループ3位－Bグループ3位

7－8位決定戦

Aグループ4位－Bグループ4位

9－10位決定戦

Aグループ5位－Bグループ5位

11－12位決定戦

Aグループ6位－Bグループ6位

3．試合結果について

表2参照。

4．試合内容などについて

(1)　各国のディフェンスについて

12カ国中、一線ディフェンスは、8カ国と以前より多くなってきている傾向である。これは、チームが大型化してきていることから、極力ディフェンスの守るスペースを減少させ、ライン際を守っていこうとするからであり、逆に従来ユーゴが行っていた3－2－1ディフェンス（アタックディフェンス）は韓国、エジプト、フランスの3カ国と少なくなっている。

この3カ国は、やはり平均身長で他国より劣るため機動力を生かして、よりプレッシャーをかけることによる相手オフェンスを攪乱させる戦法で、エジプトを除き、フランスは銅メダルに輝き大きな成果を上げていた。また、韓国についても、大型選手に対してかなりプレッシャー効果をあげ、相手のミスを誘発させていた。その反面、韓国は後半スタミナ切れがあり、逆野されたケースが何度もあった。これは、一概にはいえないが、選手の高齢化も少なからず影響している。それだけア

※P16へ続く

表1

	国　名	略号	90年世界選手権ランク	大陸代表
グループA	スウェーデン	(SWE)	1	
	ハンガリー	(HUN)	6	
	チェコスロバキア	(TCH)	7	
	アイスランド	(ISL)	10	
	韓　国	(KOR)	12	アジア大陸代表
	ブラジル	(BRA)	－	アメリカ大陸代表
グループB	旧ソビエト	(EUN)	2	
	ルーマニア	(ROM)	3	
	スペイン	(ESP)	5	
	ドイツ	(GER)	8	
	フランス	(FRA)	9	
	エジプト	(EGY)	－	アフリカ大陸代表

予選リーグ

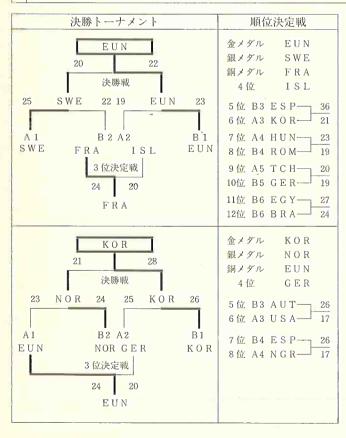
男子

GROUP－A		SWE	ISL	KOR	HUN	TCH	BRA	勝	分	敗	勝点	予選順位
スウェーデン	SWE	＊	25 — 18	28 — 18	25 — 21	20 — 14	22 — 15	5	0	0	10	A 1
アイスランド	ISL	18 — 25	＊	26 — 24	22 — 16	16 — 16	19 — 18	3	1	1	7	A 2
韓　　国	KOR	18 — 28	24 — 26	＊	22 — 18	20 — 19	30 — 26	3	0	2	6	A 3
ハンガリー	HUN	21 — 25	16 — 22	18 — 22	＊	20 — 18	27 — 21	2	0	3	4	A 4
チェコ	TCH	14 — 20	16 — 16	19 — 20	18 — 20	＊	27 — 16	1	1	3	3	A 5
ブラジル	BRA	15 — 22	18 — 19	26 — 30	21 — 27	16 — 27	＊	0	0	5	0	A 6

GROUP－B		EUN	FRA	ESP	ROM	GER	EGY	勝	分	敗	勝点	予選順位
旧ソビエト	EUN	＊	23 — 22	24 — 18	27 — 25	25 — 15	22 — 18	5	0	0	10	B 1
フランス	FRA	22 — 23	＊	18 — 16	26 — 20	23 — 20	22 — 19	4	0	1	8	B 2
スペイン	ESP	18 — 24	16 — 18	＊	21 — 20	19 — 18	23 — 18	3	0	2	6	B 3
ルーマニア	ROM	25 — 27	20 — 26	20 — 21	＊	20 — 20	22 — 21	1	1	3	3	B 4
ドイツ	GER	15 — 25	20 — 23	18 — 19	20 — 20	＊	24 — 16	1	1	3	3	B 5
エジプト	EGY	18 — 22	19 — 22	18 — 23	21 — 22	16 — 24	＊	0	0	5	0	B 6

女子

GROUP－A		EUN	GER	USA	NGR	勝	分	敗	勝点	予選順位
旧ソビエト	EUN	＊	28 — 22	23 — 16	26 — 18	3	0	0	6	A 1
ドイツ	GER	22 — 23	＊	32 — 16	32 — 17	2	0	1	4	A 2
アメリカ	USA	16 — 23	16 — 32	＊	23 — 21	1	0	2	2	A 3
ナイジェリア	NGR	18 — 26	17 — 32	21 — 23	＊	0	0	3	0	A 4

GROUP－B		KOR	NOR	AUT	ESP	勝	分	敗	勝点	予選順位
韓　　国	KOR	＊	27 — 16	27 — 27	28 — 18	2	1	0	5	B 1
ノルウェー	NOR	16 — 27	＊	19 — 17	20 — 16	2	0	1	4	B 2
オーストリア	AUT	27 — 27	17 — 19	＊	20 — 16	1	1	1	3	B 3
スペイン	ESP	18 — 28	16 — 20	16 — 20	＊	0	0	3	0	B 4

男子については、EUN、SWEの二強が実力通り順調に勝ち上がり、他国を寄せつかなかった。EUNはスピード&パワー、対するSWEは洗練されたテクニックの戦いであったが、この2チームは、現在の世界最高の水準にあり、日本としてもおおいに学ぶ点があった。特に、EUNのファーストブレークは、ボールのキープ時間が短く、少ないパスでシュートまで運ぶことが特徴で、2mを越す選手がパワーのみでなくスピードもつけてきており、今後よりスピード化が進む傾向を感じた。また、SWEは、今までにないテクニックを実用化し、武器にまでなっている。日本としても、他国に学ぶ点と独自性をミックスした日本のプレーを確立することが必要となってくることを感じた。

女子については、参加国数に制約があるため、上位陣に比較して下位陣（大陸代表USA、NGR、開催国ESP）との実力差が大きく、まだまだヨーロッパ勢中心の対戦であった。それでも、韓国はスピード、テクニック、パワーともヨーロッパを圧倒するほどのエネルギーを出し、見事金メダルに輝いた。課題であった大型プレーヤーに対するディフェンスをスピードと読みによって対応したこと、また、1対1を狙うフェイント力、そして何といっても勝利に対する精神力、執念、この3点が直接の勝因として大きくあげられる。我々男子としても、この韓国女子を、十分に参考にしていきたい。

※P14から続く

タックディフェンスは、運動量が多いということでハードである。

結果として、ディフェンスにちいては、大型化が進み、一線ディフェンスが見直されてきている傾向が見られた。また、大型化がされていないチームについては、機動力を生かしたディフェンスより成果を上げられたことが今大会の特徴として上げられた。

表３参照。

表３

順位	略号国名	ＤＦシステム	特　　　徴
金	ＥＵＮ	変型５－１	大型選手を中央に置いたＥＵＮ独自のＤＦ
銀	ＳＷＥ	一線	オーソドックスにピストン、ポストの守り厳しい
銅	ＦＲＡ	変型５－１or４－１	従来にないフリートップＤＦダブルフリートップＤＦ
４	ＩＳＬ	一線	オーソドックスな一線
５	ＥＳＰ	一線	ピストンの幅が大きい一線
６	ＫＯＲ	アタックＤＦ	ソウルより若干ツメの少ない一線
７	ＨＵＮ	一線	オーソドックスな一線
８	ＲＯＭ	一線	前へのツメの少ない一線
９	ＴＣＨ	一線	オーソドックスな一線
１０	ＧＥＲ	一線	ＤＦ近くのプレッシャー厳しい
１１	ＥＧＹ	アタックor３－２－１	ゲーム局面でシステム使い分け
１２	ＢＲＡ	一線	オーソドックスな一線

(2)　各国のオフェンスについて

全体的には、シングルポストからダブルポストになる時点のオフェンスと、フローター３人でのオープン攻撃が主体であったが、以前にも増して、早いタイミングで仕掛けてくる傾向にあり、攻撃回数が増加している。

また、ディフェンスでは、大型化が進んでいるにもかかわらず、攻撃になると機動力のあるプレーヤーがフローターとして交代して出場してくる傾向が強い。特に、優勝したＥＵＮは、ヤキモビッチ（186cm）、ドゥイシェバエフ（183cm）をＯＦ専門に起用し、スピードとパワーでその成果を発揮した。両選手のスピードのあるフェイントや個性あるシュートは参考になった。

また、専門家を十分にうならせたスウェーデンのセンター・ビスランデルは、スピードこそないが、その独特の切り込み、そこからタイミングの良いバウンドパス等、打ってよし、パスしてよしのオールラウンドの世界的なリードオフマンであった。その卓越した視野の広さと、攻めどころの勝負感は、ハンドボールの楽しさを十分に見せていた。

ＥＵＮ、スウェーデンの２チームのみならず、各国とも個性あるプレーヤーの出現により、戦術・戦法を組み立てており、大型化の傾向の中でも個性あるプレーヤーの起用が目についた。日本としても、特徴のあるプレーヤーの発掘、育成を長期的に考える必要を感じた。

表４参照。

表４

順位	略号国名	特　　　徴
金	ＥＵＮ	パワー・スピードを生かした大型速攻チーム
銀	ＳＷＥ	戦術・技術型チーム。スピードはないがタイミング等巧み
銅	ＦＲＡ	スピードと突進力の速攻型チーム、サイド・ポスト利用
４	ＩＳＬ	ワンマン型チーム、ロング主体
５	ＥＳＰ	オーソドックスなオープン攻撃の速攻型チーム
６	ＫＯＲ	１対１からのオープン・クロスオフェンスの速攻型チーム
７	ＨＵＮ	オフェンスでは中型選手のテクニック型チーム
８	ＲＯＭ	左右のロングヒッター中心チーム
９	ＴＣＨ	パワー中心のチーム。ポスト、サイド攻撃多い。
１０	ＧＥＲ	１対１からの単純なオープン攻撃。大変アグレッシブ
１１	ＥＧＹ	オーソドックスなオープン攻撃。上位とも良い内容
１２	ＢＲＡ	スピード型チーム。個人技もかなりあり

(3)　速攻について

各国とも速攻を多用し、特に上位になったチームは速攻型のチームであった。その中でも、ＥＵＮ、スウェーデン、フランスが速攻回数とその成功率が高く、勝負どころではこの速攻で「勢い」がつき、突き放す場面が多くあった。それに反して、ドイツ、ルーマニアは、速攻を仕掛ける傾向が少なく、したがって、攻撃回数も少ないので、得点が20点前後の戦いであり、見ていても「勢いを感じない」プレーぶりであった。この両チームとも大接戦はするものの、波に乗れず、下位に低迷した。

今回の速攻の特徴として、ＥＵＮ、フランスは、ボールのキープ時間が少なく、最少限のパス数でシュートまで運ぶ傾向に対し、スウェーデン、韓国は、リードオフマンの単独ドリブルからのパスワークで組み立てる傾向で、いずれにしても、速攻をトライしてからセットに切り替えるというパターンが多かった。そして、後半の時間との勝負になった場合と、退場者が出た場合のほかは、かなり高い確率で速攻を仕掛けていた。

(4)　シュート確率とキーパーについて

シュート確率として、今回の結果から（準決勝までのデータ）、

ロング陣としては50％前後、

サイドポストとしては65～70％、

と高水準であり、確率の高いパターンでオフェンスしている。従来（90年世界選手権）と比較し、シュート確率は上昇している。反面、キーパーの阻止率（３試合以上）は50％を越えるプレーヤーがおらず、最高で42％のキープとなっている。

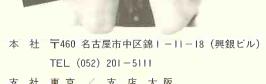
このことは、シュート技術の向上があげられそうだが、その中でもフローターのランニング、あるいはフェイントステップシュート、そしてサイドシュート技術などが確率的に向上していることが原因になっている。特に、ＤＦとＧＫのタイミングをはずしたランニング、あるいはフェイントステップシュートは、場面により、意表をつかれ、ＧＫが動けずにゴールすることがよくみられた。また、サイドシュートについても、スピンやフェイントシュートなど多彩になってきており、ＧＫ泣かせが、キープ率の低下の要因としてあげられる。

(5)　まとめ

今回、日本はオリンピックに出場できなかったわけだが、この貴重な視察記録と体験を今後の強化に十分反映するよう、コーチ陣とよく検討し、選手育成に役立てていきたい。

おわりに、全日本チームへの各方面からのご支援とご協力をお願い致しまして、報告にかえます。

日本協会の活動の
前期をふり返って

日本ハンドボール協会
専務理事　中沢重夫

常々風通しのよい日本協会を目指して事業運営にあたっておりますが、まだ半年余りと短期間で、皆様には、目に見えた変化の程が実感して頂けないかと思いますが、多くの諸先輩が築かれた業績を守りながら、一つ一つ多少ながら積み重ねてまいりましたので、何か感じとって頂けたらと考えます。専務理事就任時より、現在まで取り組んできました課題の現状と今後への考え方についていくつか述べさせて頂きたいと思います。

まず、4月就任された各理事に、自主的に事業運営に取り組んで頂きたいと申しあげてから、活動しやすく条件整備をしました。理事会では、何度となく積極的な討議・意見交換がなされ、予定時間をオーバーし、遠方より出席されている理事の、帰る時刻を心配しながらの討議には大いに喜ばしいことであります。

次に各競技層の育成と指導者の育成の問題です。各大会へ出かけて感じることですが、昔選手であったOB・OGにお会いしては、「今何かスポーツをしていますか」と聞いてしまいます。その答えは、「バレーや野球をやっているが本当はハンドをやりたい。しかし近くにハンドのチームがない」が多数です。

OB・OGが地域で参加できる機会がないのは協会関係者としてとても残念です。今後は、地域単位のチーム活動に協会が率先して支援していき、ママさんバレーのように地域に密着したスポーツの仲間入りをさせたいと思います。

この地域単位で盛んな協会を核として、隣接協会へ拡大して頂けるような支援を考えています。現在、盛んな協会がどのような計画や運営で活動しているか調査中です。高校・大学・社会人のプレーヤーが地元へ戻っても地域で楽しくハンドができる機会を充実させることが私の大きな課題です。

そのため指導者育成ですが、小中学校では、指導者の転校等でハンドの指導ができなくなり、チームが存続できないことが多いと聞きます。学校でハンドができなくなっても、指導者がいれば市町村のスポーツ少年団等で(小学生)続けることが可能です。

特に中学校では、ハンドの経験ある教員が少ないため、指導者育成が重要と思います。本格的にハンドを始めるのが中学からで、そこに優秀な指導者を多く求めることによって、日本のレベル向上に大きな影響があると思います。

日本協会の永年の課題である財源確保は、多くの諸先輩が取り組まれ、現在に至っております。率直に申しあげて私など教員は、普及や指導には能力を発揮できても、ビジネス感覚が乏しいためもあって、財源問題を永年の課題としてきたと思います。4月より、財務を、実業家として経験豊富な山下　泉氏に(前　広島アジア選手権実行委員長)お願いしました。山下理事には、この財務を担当して頂き協会運営にご尽力頂きたいと期待しています。

具体的には、財務体質の改善を段階的に取り組み、国際大会を開催できる、またナショナル選手の個人負担をなくせるような財源確保を目指しています。国際大会開催では、先の広島アジア選手権が日本協会にとって最大の大会でした。94年福岡ユニバーシアードにハンドボールが採用されなかったことは、協会に世界大会規模の開催実績がなかったことも遠因と思われます。

アジア選手権では、広島協会の総力で立派な報告書が作成されました。今後、マニュアルとして大いに活用して頂きたいと思います。これを基に世界学生、世界ジュニア大会を手がけてみてはどうでしょうか。目標は、世界選手権開催であります。またジャパンカップを定期化することについて、企画委員会が調査、検討中です。今後、国際大会開催のプロジェクトを発足させ、定期的に勉強会を開いて実現に一歩でも近づけようと考えます。

県協会だより

アジア大会の成功をめざして

広島県ハンドボール協会

昨年8月にバルセロナ・オリンピック、世界選手権大会のアジア地区予選会を兼ねた第6回男子第3回女子アジアハンドボール選手権大会を広島で開催して丸1年を経過しました。国内で初めてというビッグイベントを広島で開催でき全日本チームのオリンピック出場は成らなかったとはいえ、大会を成功のうちに終えられたことは、申すまでもなく、斎藤英四郎日本協会会長をはじめ多くの皆様方のご支援のお陰とバブル経済崩壊後の今日改めて痛感しています。

広島県ハンドボール協会にとりましては、2年後の第12回広島アジア競技大会、3年後の第38回全日本教職員大会、4年後の第51回国民体育大会と、イベントが目白押しとなっています。

特にこの9月1日で、開会式まであと761日となった広島アジア競技大会につきましては、前回のアジア選手権と同様、広島県協会においても準備委員会を発足させ、現在作業中です。

8月9、10日には中澤重夫日本協会専務理事をお迎えして、現在急ピッチで建設中のアジア大会の開閉会式をはじめとするメイン会場となる広島広域公園及びハンドボール会場となる東区スポーツセンターを視察していただきました。

特に東区スポーツセンターにおきましては、海外遠征等豊富な経験をお持ちの中澤先生より多くのアドバイスをいただくことが出来ました。私たちも昨年のアジア選手権大会を無事終えたとはいえ、競技会場における各国役員選手団からの生の声はなかなか耳にすることも少なく、一抹の不安があっただけに中澤先生の視察は大変意義深いものがあったように思います。

さて、肝腎のアジア競技大会ですが、大会の組織委員会も先程書きましたように現在日本を襲っているバブル経済の崩壊による不況により、大会の運営資金の調達には大変苦労されています。

現在私たちハンドボール競技準備委員会が進めている作業は、アジア選手権大会の時とは違って運営資金を集めるといったことはなくてもよいのですが、この財政難のあおりを受け緊縮予算の中での運営を余儀なくされそうです。

たとえば、大会運営上、競技場内において運営本部を設営する訳ですが、現在の計画では最もコートに近くて便利な現在では器具庫として使用している部屋を使う予定です。しかしそこはコンクリートの打放しのままなので、クロスを貼り、照明をつけ、空調設備を設置する様要望していますが、なかなか予算をつけてもらえず苦労しています。

今後も折衝を行ない、最低限の施設だけは準備してもらうよう働きかけていくつもりです。

本大会での運営面につきましては、先のアジア選手権の時と同様参加国の決定後、組み合わせ抽選がある訳ですが、試合スケジュールの決定後でないと具体的な運営方法をなかなか決めることはできません。この点については前回の経験を活かすことによって比較的スムースに運営できることと思います。

どちらにしましても大会運営要員は現在の試算で一日当り220名位必要です。出来るだけ広島県内で調達したいと思いますが、不足する場合は近県の皆様方の応援をお願いすることになろうかと思います。その節にはよろしくお願いいたします。

アジア選手権大会を広島で開催して以来、見ず知らずの人からハンドボールをして見たい、試合はいつあるのですかといった電話をよくもらうようになりました。広島においてはこのようにハンドボールに対する関心が大変高まってきたのは事実です。その火を消さないよう協会の役員も一丸となって一層の努力を続けるつもりですから、今後共ご支援の程よろしくお願い申し上げます。(県協会理事・山本　一)

県協会だより

インターハイ開催の経験を活かし

宮崎県ハンドボール協会

本県協会は、昭和38年都城市において発足し今年で30年目を迎えます。発足以来、若手中心の協会役員編成を余儀なくされているが、協会組織充実を目指し未熟ながらも熱気あふれる協会であります。現理事長も7代目（6人目）であるが、就任時は30代後半の若さであった。

協会組織は、審判・強化・技術普及・調査研究の4専門部と高体連・中体連・県リーグ・各市協会の代表からなる常任委員会で構成され、年間協会運営にそれぞれの立場から任務遂行に努力しています。審判部と強化部は、互いに連携のもと事業計画し、審判技術の向上と競技力の向上は切り離すことのできない内容と考えています。上級審判員養成に積極的に取組み、強化合宿等には公認審判員の自主的研修参加で、競技力向上を審判の目からみつめ協力体制を確立している。平成4年度全国高等学校総合体育大会が高城町で開催され、本県から6ペアーの審判員が参加し研修を積んだ。

技術普及部は、小学生への普及をめざし全国大会出場・小学生大会開催等で徐々にチーム数の増加があり、将来が楽しみである。調査研究部は、20周年記念式典以来本県協会の歩みを記録保存し、近くは30周年記念誌発行への準備中です。また、強化部の技術向上と合わせて、ハンドボール技術の指導方法等の編集も計画しています。強化部は、中学・高校・一般の競技力向上対策として指導方法の一貫性確立を目標に、性別、年齢別、発達段階別指導方法とハンドボール技術の基本指導理念の確立をめざしています。強化練習会を計画的に実施し、高校一般の合同練習を通して意識の啓発を促し、将来本県ハンドボールの指導者としての人間育成にも努力している。

競技力については、発足当時九州各県のお荷物的存在であったが、先輩協会に追い着け追い越せを目標に努力を積み重ねて参りました。でも九州大会・全国大会では、1回戦敗退の繰返しでした。昭和54年の国民体育大会開催にあたり、高校・一般の計画的競技力向上をはかり、まずは九州のトップレベルに達すべき努力を行った。

54年の神戸インターハイでは、小林工業高校が3位の快挙を成し遂げ、宮崎国体で、少年男子3位・他はベスト8の成果を納め本県ハンドボール競技力の元年となる国体開催であった。その後、成年男子の九州選手権5連勝をはたし、58年豊田インターハイで宮崎南高校がベスト8入りした。このことは、中学・高校の連携が実った年であり、競技力向上には中学・高校の一貫指導体制の必要性が主張された。昭和67年の全国高校総体決定後、中学高校合同合宿の実施にて当時中学2年生を中心に強化し、年次的計画のもと平成4年を迎えた。

結果的には、男子2回戦、女子ベスト8であったが、本県のめざした中学高校一貫指導の成果をみ、今後の継続的実施を関係機関にお願いしたい。平成3年度は、女子本庄高校が九州高校選手権で悲願の初優勝をはたし、九州中学大会で男子北川中学も初優勝と盛り上がった。本県の目標である九州一の関門を突破した時点で、全国高校選抜大会における本庄高校の2位・3位という実績の上に、次は日本一への目標にむけスタート年であった。課題は、中学高校一貫指導体制確立のため、数少ない中高のチーム現状対策として指導者の適正配置がある。地域性を考慮した中高の指導者配置と社会人のスタッフ確保が最大の課題でもある。

組織構成では、ハンドボール経験者が少しづつではあるが県内に残り、選手や指導者として協会発展のため努力してくれる。社会人の掘り起こしとママさん選手の参加や県内ハンドボール愛好者の増加・女子指導者の養成と、30周年を迎えるにあたり残されている課題はたくさんある。また、全国的レベルの技術を学ぶため毎年日本リーグ開催にも努力している。

本年平成4年度全国高等学校総合体育大会を開催し、大会運営・組織活性化の貴重な体験を活かし、県ハンドボール協会の発展・充実のため協会一団となり努力をいたします。日本協会をはじめ各県協会の御指導の程、よろしく御願いいたします。

一段の普及・強化をめざして

全国高体連ハンドボール専門部

戦後、初のハンドボール国際選手として、インターハイ出場チームの監督として、国際審判員として、大変有名で功績のあった、前部長・佐野和夫先生の後任を引き受けて、私も3年目に入りました。この間、関係各方面の方々に助けられ、支えられ、励まされて、その職責を果たしております。本当に『人は財産なり』を痛感している今日、比の頃です。

全国高体連(日比谷・星陵会館)の理事会、中央委員会、専門部長会、基本問題検討委員会等の諸会議にも出席している中で、全国高体連ハンドボール部と関連ある項目に就いて紹介しておきたいと存じます。

(1)朝鮮高級中学校の試合参加の件

この問題は、ここ3年来、新聞やTV等でも大きく報道され、国会でも取り上げられました。これに対して全国高体連としては、軽々に論じて、拙速に流れてはいけないとの大方針の下、朝鮮高級中学の他かに、専修・専門学校、単位制学校、広域の通信制高校等に就いても十分検討する必要がある。また、これらの学校を含めて大会を実施するとなれば、所謂、一条項に示されている高等学校の大会と、どう整合性を持たせて問題解決して行くか慎重を要する所であります。

したがって、全国高体連としては、上につながらない試合に限っては関知しない、という方針を出しています。都道府県の高体連の各専門部の間で、十分連絡し検討協議してやって下さい、ということになりましょうか。それでは、各専門部で、この件はどうなっているかということで、今年の2月に関係専門部長を含めて基本問題検討委員会が臨時に開催されました。そこで情報交換をしたわけですが、この件で、現在、対応に苦慮している専門部は、ハンドボールも含めてありませんでした。

しかし、今年度、春の全国高体連理事会の席上、ある県の理事長より、早く方向性を示して欲しい旨の強い要望が出されました。

私ども、ハンドボール部でも他人事、対岸の火ではいられなくなる日が、近い将来、やって来るかもしれません。

(2)選抜大会の開催、運営の件

高校スポーツ界では、インターハイと選抜大会が二大イベントであります。その選抜大会もハンドボール部のように、すでに15回を越える伝統や実績のある専門部もあれば、未だ、5回とか10回に満たない専門部もあります。

選抜大会を開催するに当って、全国高体連は次のような原則を打ち立てております。

①授業期間にやらないこと。年度内に終了。

②予選をやらないこと。

③参加費を取らないこと。

④経済的負担をかけないこと。

選抜大会当初の頃は、地方協会が主で、高体連はその後に控えていた形ですが、実際には高校の先生が、高校の生徒を引率して、地元の先生が競技役員や審判をやり、補助役員には高校生がいるという現実があります。

また、各専門部も競って選抜大会を開催運営するようになると、参加費をとる専門部があったり、授業期間に競技する専門部が出てきたり、補欠を含めて参加選手の人数枠の増加要求する専門部が現われて、その指導や忠告や対応に苦慮しているのも事実です。その点、高体連ハンドボールは優等生である事は間違いなし、衆目の認めるところです。

しかし、全国高体連ハンドボール部常任委員会の席上、北海道、東北、関東、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州の9ブロックの代表から、通常は26チーム、15回等の記念大会は30チームで実施している選抜を、参加チーム数を少しでも多くして欲しいとか、ブロック内の出場チーム数を同じにして欲しいとか、強い要望が出ております。普及と強化は協会も高体連も全く同じです。日程、会場、費用等々に思いを致す時、力不足は認めつつも、斯道奨励、競技力向上に挺身する所存です。

(全国高体連ハンドボール部部長・須藤健児)

委員会報告　スポーツ医科学委員会

競技力向上をスポーツ医科学の立場から

スポーツ医科学委員長　西山逸成

1、アトランタへの再出発に向けて

ミュンヘン・オリンピック大会（1972）以降モントリオール、モスクワ（不参加）、ロスアンゼルス、ソウルと継続参加してきたが、バルセロナ（1992）でオリンピック出場権を得られなかった悔やしさ！　そしてその屈辱はハンドボール界挙げてのアトランタへ向けての願望、そして雪辱を期しての新生日本、ナショナル男女・ヤングチームの誕生であった。

男子は27・4歳から24・1歳に、女子は25・3歳から22・4歳と両チームとも若さとパワーを基盤とした限りなき向上・躍進を標傍してのチーム構成と評価できよう。

2、今後の競技力向上の方向

バルセロナ・オリンピックのアジア予選が広島（1991）で行なわれ、日本の協会関係者やファンの目前で映じられた敗因とアジアで勝つための競技力向上策：①全試合を通じて劣えることのない強健な体力（パワー＝スピード×スタミナ）、②飽くなき勝利を追求しつづけることのできるガッツ（メンタルコンディショニング）、③ハンドボール競技の基本的知識（状況判断能力や身体調整能力）、④基礎技能（強度な負荷運動中でもミスすることのないパス・キャッチ、シュートの基礎技術や攻・防時に当然選手自身の意志でプレーできなければならない選手交替時期やゲームの流れの把握）等の強化努力こそが焦眉の急（3年しかありませんよ！）としてナショナルチームに課せられた日本ハンドボール界否！　国民やJOCに対する責務とも言えよう。勿論選手自身のためにという青春の投資価値の追求こそが選手達の競技実施の大前提であることには相違ないと言えようが。

3、競技力向上の具体策について

(1)パワーが持続できる体力づくりを：ハンドボール競技の特性として、試合は30分×2セット（1万米2本の強度）と40mのコート条件で、シュート・ジャンプ・フェイント・ダッシュ・ターン等の瞬発的な動きが3000～4000m走間に40～50回選手に強要されるのが競技実体である。すなわち、瞬発的な動きを支える無酸素パワーを試合を通じて高い水準で持続できる体力づくりが実現しない限り世界選手権B大会（1992）でモーロッパ列強と闘った男子ナショナルが痛感したように、全競技（予選・順位決定の7試合）を通じたシュート確率では、日本（42・0～45・4％）：欧米チーム（53・4～60・4）、ミス率では、日本（24・8～33・0％）：欧米チーム（19・1～26・9％）、攻撃成功率では、日本（35・5～36・6％）：欧米チーム（43・8～52・5％）と各項目比較をみても日本チームの競技力水準の低さが認められる。

改善の課題は、技能水準よりも瞬発的な動き即ち、無気的な間欠運動とそのパフォーマンスに影響する有酸素パワーの強化が必要といえよう。無酸素パワーの水準を男女ナショナルチームにみると要求水準えの到達者は各5名に過ぎない。また、背筋力指数（背筋力／体重）では男子3.0基準に対して2名、女子2.0基準に対して3名という低い水準である。

また、脚筋力の水準の屈曲筋力／伸展筋力比が65％以上の選手が男女とも⅓以下の現況では、膝関節障害に大半の選手が影響されており、脚屈曲筋の強化意識の改善が急務である。

(2)スポーツ医科学を基調とした実戦的トレーニングの実践（コンディショニング）

①年間を通じた個人別体力づくりの継続実施、②体力づくり期間と試合時とを区分した糖質・グリコーゲン（炭水化物）の摂取意識の啓発、③トレーニング・試合中の水分（糖＋ビタミンCをベース）摂取の習慣化、④非健康事項（下痢・感冒・寝冷えの予防対策、喫煙の害、スナック食品・炭酸ドリンクの摂取習慣）の改善等の実践に加えて、まず指導者の「見て見ぬ振り」の排除が絶対条件である。

サンプルは韓国にあるではありませんか!!

（スポーツ医科学委員長　西山逸成）

委員会報告　広報委員会

第1回広報委員会報告

平成4年7月19日(日)実施

1、委員会活動計画

(1)地区担当を設定し情報収集等、活動の効率化を図る。

●東日本地区（恩田）
●中部・近畿地区（小林）
●中四国・九州地区（藤本）

(2)日本リーグ運営委員会と共同で東京、大阪において記者発表を実施する。東京は前期・5月28日実施済み（恩田、白井、堀）。大阪は後期開催前予定（小林）。

(3)全日本総合選手権大会における広報と準備。

●総合開催日に第2回広報委員会併催し、大会広報活動を実施する。
●プレスリリースできる過去の記録等手もとの資料を整備する（スポーツイベント社へ協力依頼する）

2、機関誌編集方針

(1)11月号

●第1回極東大会に参加して
●日本リーグフェリー初体験（岡山の女性ペアと神奈川のペアへ投稿依頼）
●日本リーグのホーム&アウェー方式と自主開催を考える
●強化、指導へ投稿依頼（強化スタッフ入りされた高校指導者）
●常務理事会報告

(2)12月号

●全日本総合選手権の展望
●ナショナル強化と国内各大会開催を考える
●今後の国際試合開催に向けて（企画・国際委員会）
●国体、インカレ後記（広報委員）
●常務理事会、理事会、評議員会報告

(3)2月号

●全日本総合後記（読売新聞社・谷戸氏へ依頼する）
●全日本総合優勝監督&部長へインタビュー
●日本リーグ後期展望とプレーオフの戦術
●登録外国人選手の賛否論（必ず外国人選手へも取材する）
●常務理事会報告

(4)3～5月号は第2回広報委員会にて討議する

3、ナショナルチーム広報パンフレット作成について（7月号常務理事会にて提案済み）

●ナショナルチームの存在PR、候補選手の意識高揚を目的として作成する
●各大会会場へ依頼して配布する（大会数より算出すると3～5万枚作成）
●海外遠征に持参できるよう英訳をつけるなど多用できるものが望ましい
●表紙に〝h〟でない日本協会のシンボルマークをデザインする（現在なし）
●表紙にはナショナル選手が着用できるエンブレムをデザインしてはどうか
●今後継続してこそ価値があり、応援して頂ける協賛スポンサー名をいれるなど財務用の対策を考慮する。

4、その他

●エンブレムと協会シンボルマークのデザインは継続して審議する
●協会機関誌の発行回数について再検討する（現在年11回）

東日本学生選手権大会

男子

▼予選リーグ

◎Aブロック

筑波大 37－15 北海学園大
筑波大 33－6 横浜商科大
筑波大 31－4 岩手大
横浜商科大 18－12 北海学園大
横浜商科大 19－10 岩手大
岩手大 22－21 北海学園大

〔順位〕①筑波大②横浜商科大③岩手大④北海学園大

◎Bブロック

早稲田大 19－16 国際武道大
早稲田大 34－23 慶応大
早稲田大 44－9 長野大
国際武道大 31－18 慶応大
国際武道大 36－11 長野大
慶応大 32－9 長野大

〔順位〕①早稲田大②国際武道大③慶応大④長野大

◎Cブロック

中央大 29－16 東北福祉大
中央大 38－12 富山大
中央大 29－11 大東文化大
東北福祉大 23－17 富山大
東北福祉大 19－14 大東文化大
大東文化大 27－18 富山大

〔順位〕①中央大②東北福祉大③大東文化大④富山大

◎Dブロック

日本体育大 34－11 新潟大
日本体育大 41－10 道都大
日本体育大 29－11 仙台大
新潟大 27－15 道都大
新潟大 23－18 仙台大
道都大 32－9 長野大

〔順位〕①日本体育大②新潟大③道都大④仙台大

◎Eブロック

日本大 25－5 北海道大
日本大 36－17 秋田大
東海大 20－19 日本大
東海大 21－11 北海道大
東海大 37－11 秋田大
北海道大 18－15 秋田大

〔順位〕①東海大②日本大③北海道大④秋田大

◎Fブロック

函館大 36－15 福島大
函館大 33－13 青山学院大
法政大 17－16 函館大
法政大 30－11 福島大
法政大 33－13 青山学院大
青山学院大 26－18 福島大

〔順位〕①法政大②函館大③青山学院大④福島大

◎Gブロック

東北学院大 35－19 金沢大
東北学院大 22－18 東京理科大
国士館大 31－13 東北学院大
国士館大 41－11 金沢大
国士館大 36－12 東京理科大
東京理科大 21－17 金沢大

〔順位〕①国士館大②東北学院大③東京理科大④金沢大

◎Hブロック

金沢工大 27－21 明治大
金沢工大 27－12 札幌大
順天堂大 25－22 金沢工大
順天堂大 28－17 明治大
順天堂大 35－11 札幌大
明治大 25－13 札幌大

〔順位〕①順天堂大②金沢工業大③明治大④札幌大

▼決勝トーナメント1回戦

筑波大 34（18－10、16－12）22 日体大
国士館大 30（18－12、12－12）24 順天堂大
早稲田大 26（12－9、14－6）15 東海大
中央大 27（13－15、14－11）26 法政大

▼準決勝

筑波大 30（18－12、12－12）24 国士館大
早稲田大 33（16－16、17－9）25 中央大

▼3位決定戦

国士館大 27（14－11、13－15）26 中央大

▼決勝

早稲田大 25（10－14、15－10）24 筑波大

▼全日本学生出場決定戦

横浜商科大 27－26 新潟大
函館大 32－21 東北学院大
日本大 31－21 国際武道大
東北福祉大 28－27 金沢工業大

女子

▼予選リーグ

◎aブロック

日本体育大 31－11 千葉明徳短大
日本体育大 47－7 北海道女短大
日本体育大 36－5 大東文化大
千葉明徳短大 25－6 北海道女短大
千葉明徳短大 22－10 大東文化大
大東文化大 12－11 北海道女短大

〔順位〕①日本体育大②千葉明徳短大③大東文化大④北海道女子短大

◎bブロック

東女体大 31－10 東京学芸大
東女体大 47－1 富山大
東女体大 28－15 東北福祉大
東京学芸大 35－2 富山大
東北福祉大 23－11 東京学芸大
東北福祉大 39－8 富山大

〔順位〕①東京女子体育大②東北福祉大③東京学芸大④富山大

◎cブロック

筑波大 22－5 東海大
筑波大 27－6 金沢大
筑波大 41－10 玉川大
東海大 30－7 金沢大
東海大 24－11 玉川大
玉川大 18－9 金沢大

〔順位〕①筑波大②東海大③玉川大④金沢大

◎dブロック

日女体大 33－10 茨城大
日女体大 28－6 仁愛女短大
日女体大 27－6 福島大
茨城大 16－15 仁愛女短大
茨城大 22－12 福島大
福島大 16－14 仁愛女短大

〔順位〕①日本女子体育大②茨城大③福島大④仁愛女子短期大

▼準決勝

東女体大 32（13－11、19－10）21 筑波大
日体大 24（12－7、12－6）13 日女体大

▼3位決定戦

筑波大 26（16－10、10－6）16 日女体大

▼決勝

東女体大 30（17－11、13－14）25 日体大

大会総評

第14回東日本学生選手権大会は、8月15日から19日までの5日間にわたり、北海道・東北・北信越・関東の各地区学連代表校男子32大学・女子16大学の合計48大学が参加して、千葉ポートアリーナ・市川市塩浜体育館において開催され、男子は早稲田大学（4回目）が3連覇、女子は、東京女子体育大学が通算8回目、7連覇となった。

男子は、8ブロックよる予選リーグが行われ各ブロックの一位大学によって決勝トーナメントが行われたが、予選リーグ後半から接戦が続いた。

春季リーグ上位の筑波大、中大、日体大は危なげなく勝ち上がったが、早大は、国際武道大戦で一時は5点差となり敗色濃厚にまで追い込まれるなど大苦戦であった。その他ではE組でシードの日大が東海大に1点差、F組で函館大が法大に同じく1点差で、敗れる波乱があった。決勝トーナメントは関東勢の対戦となった。

筑波大−日体大戦は、日体大が立ち上がりからペースに乗れず敗退。国士大−順天大は1点を争う展開となったが、国士大が前半のリードを辛うじて保ち逃げきった。

早大−東海大は、日大を破って意気上がる東海大であったが、早大の速攻で前半に勝負を決められた。中大−法大は、常に先手を取った中大が法大の追い上げを振りきって勝ち上がった。

準決勝の筑波大−国士大戦は、後半25分までは一進一退であったが、国士大がオーバースッテプでチャンスを逸してから、筑波大にたたみこまれて敗退した。

早大−中大戦は、予選リーグの苦戦が信じられないように安定した試合運びを見せた早大が、前半で勝負を決めて、後半はメンバーを落とす余裕が出たほどである。

中大は守りの要である遠藤の負傷欠場が、思わぬ結果を招いたといえる。

3位決定戦は、国士大が立ち上がり田中を中心にまとまった試合運びを見せ、前半のリードを守り中大を振りきり3位を確保した。

決勝戦は、昨年（福島）同様に早大−筑波大のカードとなった。

早大は平田のシュートで先制し9分まではリードしたが、9分35秒の筑波大藤本の得点から誉田、児島と連続ゴールで逆転され、その後も児島・藤本・広政等が加点して、筑波大が前半を14−10でリードした。

後半も8分までは19−12と筑波大がリードし圧勝かと思われたが、8分37秒岩本の得点から早大の急追が始まり、岩本・平田・五島とたたみかけ、20分29秒には同点に追いつき、15分から22分まで筑波大を無得点に押え21分25秒に江口のシュートで逆転、22−22・23−22・23−23から早大が五島・岩本で連続加点し、残り2分半で2点差とした。筑波大も28分45秒鎌田で1点差に追い上げ、終了の7秒前に早大の反則からPKを得たが、藤本がはずして早大の優勝が決まった。

女子は、4組に分かれての予選リーグであったが、シード大学が、順調に勝ち上がり決勝トーナメントは、東女体大−筑波大・日体大−日女体大の組み合わせとなった。

接戦が予想された東女体大−筑波大であったが、若さの筑波大が波に乗れず、思わぬ大差となった。

決勝は、春季リーグ1勝1負の東女体大と日体大の対戦となった。

後半6分までは1点を争う展開であったが、日体大が後半5分から11分まで無得点の間に、東女体大が並松・塩田・飯田・飯田の連続4得点で20−17として優位に立ち、その後も山田・高森などで加点し、28−19と差を広げ、日体大が沖土居・何・桐谷・福西の得点で追い上げたものの時既に遅く30−25で東女体大の7連覇が決まった。

男女共に、関東勢が上位を独占したが、インカレ出場決定戦も含めて見ると、法大に1点差で敗れたが決定戦で勝った函館大や東北福祉大、関東三部の横浜商大などの活躍が目立っている。反面、明大、東北学院大の常連校の低迷が感じられた。

女子は地方との差が未だ埋まっていないが、関東二部の茨城大が有望新人の入学で復活の兆が見えてきたのが目についた。

（関東学連委員長・岩井和成）

西日本学生選手権大会

男子

▼予選リーグ

◎Aブロック
大阪体育大 28−11 山口大
大阪体育大 38−10 福岡教育大
大阪体育大 19−13 関西大
福岡教育大 20−14 山口大
福岡教育大 22−19 関西大
関西大 20−13 山口大
（順位）①大阪体育大②福岡教育大③関西大④山口大

◎Bブロック
名城大 30−16 沖縄国際大
名城大 26−16 大阪教育大
名城大 24−9 松山大
沖縄国際大 24−20 松山大
大阪教育大 22−17 沖縄国際大
大阪教育大 30−18 松山大
（順位）①名城大②大阪教育大③沖縄国際大④松山大

◎Cブロック
中京大 23−14 広島大
中京大 19−18 同志社大
中京大 19−14 関西外語大
広島大 25−18 関西外語大
同志社大 13−12 広島大
同志社大 20−19 関西外語大
（順位）①中京大②同志社大③広島大④関西外国語大

◎Dブロック
福岡大 23−17 愛知大
福岡大 21−21 近畿大
福岡大 38−6 京都教育大
愛知大 19−14 近畿大
愛知大 27−16 京都教育大
近畿大 29−9 京都教育大
（順位）①福岡大②愛知大③近畿大④京都教育大

◎Eブロック
中部大 25−16 立命館大
中部大 23−13 東和大
中部大 38−17 広島経済大
東和大 27−21 立命館大
東和大 18−14 広島経済大
広島経済大 19−17 立命館大

◎Fブロック
京都産業大 18−17 南山大
京都産業大 21−11 西南大
京都産業大 22−18 天理大
南山大 25−16 西南大
天理大 24−22 南山大
天理大 27−10 西南大
（順位）①京都産業大②天理大③南山大④西南大

◎Gブロック
桃山学院大 28−14 愛知学院大
桃山学院大 26−21 熊本大
桃山学院大 19−18 仏教大
熊本大 22−20 愛知学院大
仏教大 16−15 愛知学院大
仏教大 21−20 熊本大
（順位）①桃山学院大②仏教大③熊本大④愛知学院大

◎Hブロック
大阪経済大 27−16 愛知教育大
大阪経済大 29−13 愛媛大
大阪経済大 29−9 大阪市立大
愛知教育大 18−15 愛媛大
愛知教育大 26−18 大阪市立大
愛媛大 23−13 大阪市立大
（順位）①大阪経済大②愛知教育

大③愛媛大④大阪市立大

▼決勝トーナメント

大体大 30（17－11、13－8）19 名城大
福岡大 33（17－12、16－12）24 中京大
中部大 35（17－5、18－13）18 京産大
大経大 38（18－13、20－5）18 桃山大

▼決勝

大体大 24（14－13、10－9）22 福岡大
中部大 22（14－10、8－8）18 大経大

▼3位決定戦

福岡大 37（16－13、21－14）27 大経大

▼決勝

大体大 25（15－6、10－12）18 中部大

▼9位決定戦

大阪教育大 32－30 天理大
同志社大 26－23 大阪教育大
東和大 29－24 愛知大
仏教大 32－23 愛知教育大

女子

▼予選リーグ

◎aブロック

福岡大 26－14 関西外語大
福岡大 33－9 愛知教育大
福岡大 38－10 京都教育大
関西外語大 24－6 愛知教育大
関西外語大 19－9 京都教育大
京都教育大 20－15 愛知教育大

〔順位〕①福岡大②関西外国語大③京都教育大④愛知教育大

◎bブロック

中京女大 21－21 大阪体育大
中京女大 27－9 天理大
中京女大 23－12 立命館大
大阪体育大 24－8 天理大
大阪体育大 20－7 立命館大
天理大 23－20 立命館大

〔順位〕①中京女子大②大阪体育大③天理大④立命館大

◎cブロック

大阪教育大 28－7 広島大
大阪教育大 16－5 仏教大
福岡教育大 24－14 大阪教育大
福岡教育大 38－5 広島大
福岡教育大 28－8 仏教大
仏教大 26－17 広島大

〔順位〕①福岡教育大②大阪教育大③仏教大④広島大

◎dブロック

武庫川女大 26－10 中京大
武庫川女大 36－4 岡山県短大
武庫川女大 31－5 九州女大
中京大 32－9 岡山県短大
九州女大 19－16 中京大
九州女大 28－14 岡山県短大

〔順位〕①武庫川女子大②九州女子大③中京大④岡山県立短大

▼準決勝

福岡大 29（15－14、14－12）16 中京女大
武庫川女大 33（17－4、16－8）12 福岡教育大

▼3位決定戦

福岡教育大 32（15－14、13－14、1－2、3－1）32 中京女大

▼決勝

武庫川女大 32（16－9、16－11）20 福岡大

大会総評

本年、西日本インカレを終え、顧みてどんなに多くの方々にご注意、ご指導、応援、ご協力を頂いたことか、この紙面をお借りして、感謝の気持ちを込めてお礼申し述べさせて頂きます。

あわせて、当初開催日程及び会場の変更で、皆様にご迷惑をお掛けしましたこと深くお詫び申し上げます。

この日程等について少々述べさせて頂きますが、各地のスケジュールをみますと、高校総体及び教職員大会が8月上旬（本年教職員大会は8月13日まで高松）に開催され、近畿の国体ブロック大会（8月21日～23日・京都）があり、その他全日本小学生（8月初旬）、近畿国立大学が4日間開催される中へ、西日本インカレの5日間をどう組み込みかという作業が行われた訳です。

まず国体ブロック大会の3日間をさけた前後の開催ということになりますが、当初予定しました25日から29日は、西日本参加の学連によっては、秋リーグの開催が25日頃から始めたい意向のところがあり、関西も休みなく秋リーグを行わなければならず、結局「ミニ国」の前での開催となりました。

そこで20日までの間にコート3面（2会場で、1会場はコート2面とれる会場）の獲得ということになり、関西では2面の体育施設は大阪府立体育館、大阪市立中央体育館と宇治の太陽ヶ丘体育館のみです。しかし府立は、この時期、毎年ボリショイ・サーカスの公演があり、中央は社会人の全日本バレーボール大会の開催で使用できず、それ故、宇治の太陽ヶ丘（2面）と、京都伏見（1面）とで、開催することに決定し、交渉に入りました。

ところが、関西特有の行事がおもわぬ障壁となって開催を見送りざるを得ませんでした。それは、「お盆」それも京都東山連峰に赤々と映える「送り火」の見物人が全国から集り、16日の夜までの宿舎の手配が出来ないという状況でした。どうしたら良いのか、全く五里霧中でした。

他の地区では、阪神間がご承知のとおり、この時期、高校野球で、体育館、宿舎共塞がっており、宿舎に至っては大阪市内にも宿泊している状態です。

残るのは南部ですが、最悪の場合、大学の施設使用も考えていたのですが、平成9年の大阪国体のハンドボール会場に、堺市が決定されたのを聞き、まず宿舎の状況を深ったところ、収容力があるということが判り、早速、大阪協会に会場の紹介をお願いしましたところ、協会は勿論、堺市及び関係官庁のご協力を得ることが出来、開催の運びとなった次第です。地獄で仏とは正にこのことでしょう。どんなに感謝しても、しすぎるということはありません。

いよいよ、会場準備に入ったのですが、当初、2会場という想定のもとに計画していた為、会場が3ヶ所となったことで力が三分割され、学生委員の苦労は筆舌に尽くし難いものがありました。会場設営、後仕末、学生の動員、配置指導等です。また、審判員のローテーションにも影響し、ご迷惑をお掛けしたのではないかとおもいます。

大会そのものは皆さんご存知のとおりで、試合結果も報告発表されたとおりです。本年は、松山で11月に行われる全日本インカレの男子が、記念大会で参加チーム数が増え、その選抜試合が、4試合あったことが何時もと違いましたが、それも無事終えることが出来ました。

想い出すこと、羅列しましたが、前を見ると数日後に、秋リーグの開会式が迫っています。さあ頑張るぞ。

（関西学連理事長・渡邊　巌）

各地の大会結果

東北

第45回青森県高校総体

（6月6～8日／野辺地高校ほか）

〈男子〉

▼1回戦
今別 19－5 野辺地工

▼2回戦
青森商 24－6 今別
青森東 36－7 柏木農
三本木 23－22 三本木農
野辺地 40－10 横浜分
青森山田 32－16 五所工
青森 20－17 十和田工
鰺ヶ沢 17－15 五所
青森南 26－16 七戸

▼3回戦
青森商 30－11 青森東
野辺地 29－9 三本木
青森山田 26－12 青森
青森南 34－13 鰺ヶ沢

▼準決勝
青森商 20－11 野辺地
青森山田 30－14 青森南

▼決勝
青森商 30（10－7、20－5）12 青森山田

〈女子〉

▼1回戦
三本木 17－1 野辺地工

▼2回戦
青森中央 29－9 三本木
青森商 20－15 今別
野辺地 13－7 青森東
青森西 22－6 六ヶ所

▼準決勝
青森中央 32－13 青森商
青森西 15－6 野辺地

▼決勝
青森中央 24（11－4、13－6）10 青森西

宮城県高校総体

（6月6～8日／東北工大体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦
仙台商 36－12 登米
仙台東 27－8 宮水産
築館 26－11 一迫商
向山 17－13 仙台西
榴ヶ岡 33－15 佐沼
宮城広 21－15 宮城工
電子 15－8 泉館山
古川工 24－15 名取北
泉松陵 33－29 仙台
古川 22－7 塩釜
仙台三 33－9 東北

▼2回戦
育英 27－16 仙台商
築館 16－11 仙台東
向山 19－11 仙台一
古川商 25－18 榴ヶ岡
仙台二 16－10 宮城広
古川工 25－16 電子
泉松陵 24－11 古川
仙台南 18－9 仙台三

▼3回戦
育英 33－8 築館
古川商 28－13 向山
仙台二 21－19 古川工
仙台南 28－14 泉松陵

▼準決勝
育英 20－18 古川商
仙台南 24－13 仙台二

▼決勝
育英 15（6－4、9－9）13 仙台南

〈女子〉

▼1回戦
明成 30－6 泉館山
宮広瀬 18－8 名取北
佐沼 10－7 登米
涌谷 11－10 塩釜女
古川女 25－9 仙台東

▼2回戦
聖和 27－5 明成
仙台西 36－11 築館女
宮二女 17－5 宮広瀬
宮三女 32－3 佐沼
古川商 21－3 涌谷
仙女商 25－5 仙台南
飯野川 24－6 泉松陵
宮一女 17－9 古川女

▼3回戦
聖和 28－9 仙台西
宮三女 13－11 宮二女
古川商 29－14 仙女商
宮一女 32－12 飯野川

▼準決勝
聖和 21－9 宮三女
古川商 17－10 宮一女

▼決勝
聖和 17（9－4、8－4）8 古川商

関東

千葉県実業団春季リーグ戦

（4月12、18、19日／三井石油化学体育館）

▼1部リーグ
コスモ石油 37－18 日産化学
出光千葉 31－9 海自館山
コスモ石油 37－19 海自木補
出光千葉 27－21 日産化学
海自下総 34－11 海自木補
日産化学 24－22 海自木補
コスモ石油 25－17 海自館山
出光千葉 34－12 海自木補
海自下総 28－14 日産化学
コスモ石油 24－18 出光千葉
海自下総 31－10 海自館山
日産化学 20－19 海自館山
海自下総 30－17 出光千葉
海自木補 21－20 海自館山
コスモ石油 20－16 海自下総

（順位）①コスモ石油②海自下総③出光千葉④日産化学⑤海自木補⑥海自館山

▼2部リーグ
三井石化 27－13 東京ガス
東京電力は棄権

（順位）①三井石化②東京ガス③東京電力

第45回群馬県高校選手権

（6月21、28日／富岡高校体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦
玉村 24－6 大田市商
高崎東 16－11 高崎工
藤岡 12－0 育英
富岡実 26－9 桐生工
下仁田 29－13 藤岡工
前橋商 26－2 桐生
吉井 18－10 前橋

▼2回戦
富岡 14－9 高崎東
富岡実 22－12 下仁田
前橋商 22－20 吉井

▼準決勝
富岡 33－15 藤岡
富岡実 26－16 前橋商

▼決勝
富岡 20（7－6、13－8）14 富岡実

〈女子〉

▼1回戦
高崎東 21－5 下仁田
太田商 11－10 富岡実
高崎女 20－11 前橋商

▼2回戦
群女附 20－4 高崎東
吉井 25－13 高崎女
桐生女 19－9 高市女
桐生西 27－6 太田商

▼準決勝

群女附 28－7 桐生女
桐生西 18－16 吉井
▼決勝
群女附 28（18－6、10－10）16 桐生西

東海

第46回愛知県高校総体

（4月26日～6月7日／豊田南高校、三好高校ほか）

●東三河支部

〈男子〉

▼1回戦
御津 24－15 新城東
時習館 27－4 豊橋商
桜丘 28－12 豊丘
三谷水産 27－17 豊橋南
豊橋西 24－20 豊橋東
豊橋工 18－15 国府

▼2回戦
蒲郡東 29－10 御津
桜丘 15－8 時習館
三谷水産 26－13 豊橋西
豊川工 22－17 豊橋工

▼準決勝
蒲郡東 24－21 桜丘
豊川工 14－11 三谷水産

▼3位決定戦
三谷水産 14－13 桜丘

▼決勝
蒲郡東 16（10－6、6－7）13 豊川工

〈女子〉

▼1回戦
桜丘 35－6 宝陵
蒲郡 16－11 新城東
蒲郡東 13－7 豊橋西
豊丘 8－4 豊橋東
時習館 19－12 御津

▼2回戦
国府 24－6 桜丘
蒲郡東 26－10 蒲郡
豊橋南 13－9 豊丘
豊橋商 27－7 時習館

▼準決勝
国府 17－10 蒲郡東
豊橋南 10－5 豊橋商

▼3位決定戦
蒲郡東 16－15 豊橋商

▼決勝
国府 16（7－4、9－4）8 豊橋南

●知多支部

〈男子〉

▼1回戦
武豊 9－6 横須賀
知多 16－7 知多東
阿久比 17－14 東浦
東海南 29－8 大府
常滑北 18－15 半田工

▼2回戦
半田 18－8 武豊
阿久比 28－12 知多
東海南 20－18 大府東
半田東 25－15 常滑北

▼準決勝
半田 16－9 阿久比
東海南 18－15 半田東

▼決勝
半田 27（14－5、13－7）12 東海南

〈女子〉

▼1回戦
桃陵 8－6 横須賀
大府 15－7 知多
半田商 15－5 半田東
常滑北 6－4 阿久比
東海商 13－7 東海南
東浦 12－6 知多東

▼2回戦
武豊 14－6 桃陵
半田商 26－6 大府
常滑北 12－7 東海商
半田 13－7 東海

▼準決勝
武豊 22－11 半田商
半田 17－6 常滑北

▼3位決定戦
常滑北 11－10 半田商

▼決勝
武豊 19（6－7、9－8、1－0、3－2）17 半田

●名北支部

〈男子〉

▼1回戦
市工芸 26－14 山田
旭丘 18－11 春日井工
明和 20－13 東邦
春日井東 34－10 春日丘
栄徳 16－4 名古屋西
名東 34－7 愛知工
千種 19－11 東山工
菊里 43－7 名学院
瀬戸北 15－11 長久手
高蔵寺 21－8 名大付
旭野 17－13 春日井南
北 20－16 瀬戸西
春日井西 19－17 瀬戸

▼2回戦
愛知 19－11 市工芸
旭丘 19－10 明和
春日井東 28－6 栄徳
千種 17－8 名東
春日井 24－12 菊里
高蔵寺 28－10 瀬戸北
旭野 19－8 北
東海 27－12 春日井西

▼3回戦
愛知 19－8 旭丘
春日井東 17－11 千種
高蔵寺 14－13 春日井
東海 21－9 旭野

▼5～8位決定戦
旭丘 16－12 千種
春日井 18－17 旭野

▼7位決定戦
千種 17－9 旭野

▼5位決定戦
旭丘 15－13 春日井

▼準決勝
愛知 22－12 春日井東
東海 25－17 高蔵寺

▼3位決定戦
春日井東 21－20 高蔵寺

▼決勝
愛知 23（12－2、11－9）11 東海

〈女子〉

▼1回戦

名東 9－9 高蔵寺（3 PTC 1）
長久手 21－15 西陵商
旭野 18－8 瀬戸西
淑徳 15－7 瀬戸北
瀬戸 19－3 北
明和 12－8 名古屋西
市工芸 20－10 東邦
市邨 19－9 名古屋商
愛知商 22－3 千種
春日井西 21－5 春日井東
春日井商 18－11 椙山

▼2回戦
中京女 19－2 名東
春日井南 18－15 長久手
旭野 42－6 淑徳
瀬戸 10－9 菊里
春日井 22－12 明和
市邨 22－8 市工芸
愛知商 17－11 春日井西
緑丘商 41－8 春日井商

▼3回戦
中京女 16－8 春日井南
旭野 15－12 瀬戸
春日井 18－15 市邨
緑丘商 18－15 愛知商

▼5～8位決定戦
春日井南 22－14 瀬戸
愛知商 14－13 市邨

▼7位決定戦
瀬戸 15－8 市邨

▼5位決定戦
愛知商 17－11 春日井南

▼準決勝
中京女 13－9 旭野
緑丘商 23－12 春日井

▼3位決定戦
旭野 18－14 春日井

▼決勝
緑丘商 6（1－2, 5－3）5 中京女

●名南支部

〈男子〉

▼1回戦
名城大附 25－19 南陽
名古屋南 17－14 名古屋大谷
松蔭 32－7 豊明
日進西 31－13 享栄
東郷 26－9 名商大附
天白 19－13 瑞陵
中村 27－9 名市工
鳴海 16－14 緑
昭和 23－6 星城
日進 17－11 熱田

▼2回戦
中京 43－12 名城大附
名古屋南 26－10 惟信
松蔭 16－8 日進西
向陽 18－12 東郷
名南工 25－10 天白
鳴海 28－10 中村
昭和 19－7 同朋
桜台 40－1 日進

▼3回戦
中京 32－16 名古屋南
松蔭 16－12 向陽
名南工 21－7 鳴海
桜台 27－9 昭和

▼準決勝
中京 28－12 松蔭
桜台 23－12 名南工

▼3位決定戦
名南工 22－15 松蔭

▼決勝
桜台 19（13－7, 6－9）16 中京

〈女子〉

▼1回戦
東郷 14－7 向陽
富田 25－2 熱田
若宮商 14－3 南陽
高蔵 24－4 中村

▼2回戦
名短付 43－6 東郷
鳴海 18－17 惟信
名古屋南 18－8 中川商
松蔭 6－5 富田
天白 28－4 若宮商
桜台 15－5 日進西
昭和 23－6 同朋
東海女 38－1 高蔵

▼3回戦
名短付 48－2 鳴海
松蔭 17－2 名古屋南
天白 8－6 桜台
東海女 20－2 昭和

▼準決勝
名短付 36－8 松蔭
東海女 18－8 天白

▼3位決定戦
天白 15－9 松蔭

▼決勝
名短付 27（13－4, 14－5）9 東海女

●西三河支部

〈男子〉

▼1回戦
安城東 14－7 刈谷北
豊田工 1[illegible]－4 西尾実
岡崎東 23－11 岡崎北
岡崎西 13－5 安城
吉良 15－13 碧南
豊田北 10－7 豊野
豊田 14－9 西尾
豊田南 15－7 衣台
幸田 23－20 刈谷工
三好 19－10 高浜
刈谷 15－10 安城南
三好 19－7 知立東
碧南工 13－10 一色
岡崎工 23－9 西尾東

▼2回戦
岡崎城西 25－8 安城東
岡崎東 23－12 豊田工
岡崎西 20－7 吉良
豊田 16－10 豊田北
豊田南 25－13 幸田
刈谷 19－11 三好
三河 23－7 碧南工
岡崎 28－6 岡崎工

▼3回戦
岡崎城西 36－9 岡崎東
岡崎西 16－13 豊田
豊田南 16－4 刈谷
岡崎 24－12 三河

▼5～8位決定リーグ
岡崎東 21－20 豊田
岡崎東 18－17 刈谷
岡崎東 23－20 三河
豊田 21－16 刈谷
豊田 23－18 三河
刈谷 19－12 三河

▼決勝リーグ
岡崎城西 20－13 岡崎

岡崎城西 31－8 豊田南
岡崎城西 31－2 岡崎西
岡崎 19－18 豊田南
岡崎 17－14 岡崎西
豊田南 21－13 岡崎西

〈女子〉

▼1回戦

安城東 8－6 岡崎東
吉良 16－7 幸田
衣台 21－6 知立東
岩津 28－1 一色
岡崎商 7－5 豊田北
西尾 9－3 西尾東
豊田 6－4 刈谷
岡崎 12－4 知立
岡崎北 6－2 刈谷北
安城 15－4 安城南
豊田東 15－6 碧南

▼2回戦

三好 24－4 安城東
衣台 27－5 吉良
豊野 19－13 岩津
豊田南 13－8 岡崎商
岡崎西 17－0 西尾
岡崎 12－10 豊田
安城 11－5 岡崎北
安城学園 22－0 豊田東

▼3回戦

三好 24－6 衣台
豊田南 10－6 豊野
岡崎西 14－1 岡崎
安城学園 27－6 安城

▼5～8位決定リーグ

豊野 11－10 岡崎
豊野 18－14 衣台
豊野 24－14 安城
岡崎 8－7 衣台
岡崎 14－7 安城
衣台 20－19 安城

▼決勝リーグ

三好 15－12 安城学園
三好 10－3 岡崎西
三好 17－5 豊田南
安城学園 13－8 岡崎西
安城学園 19－6 豊田南
岡崎西 10－4 豊田南

●尾張支部

〈男子〉

▼1回戦

一宮西 10－7 平和
岩倉 16－3 大成
丹羽 17－5 起工
蟹江 13－7 江南
稲沢 10－7 尾西
津島 11－6 弥富
新川 16－1 犬山
稲沢東 21－5 一宮工
西春 18－3 小牧工
一宮 8－1 一宮南
五条 21－7 尾北
美和 13－11 津島東
一宮興道 13－5 一宮北

▼2回戦

小牧南 12－6 一宮西
丹羽 23－6 岩倉
蟹江 20－10 稲沢
新川 22－6 津島
佐織工 16－8 稲沢東
一宮 15－12 西春
五条 11－10 美和
犬山南 24－12 一宮興道

▼3回戦

小牧南 15－4 丹羽
蟹江 14－12 新川
佐織工 12－7 一宮
五条 13－5 犬山南

▼5位決定戦

新川 7－6 丹羽
犬山南 15－8 一宮
犬山南 14－12 新川

▼準決勝

小牧南 17－15 蟹江
五条 18－15 佐織工

▼3位決定戦

蟹江 24－20 佐織工

▼決勝

小牧南 15（6－7、9－6）13 五条

●中央大会

〈男子〉

▼1回戦

東海 26－15 岡崎東
松蔭 12－11 旭丘
豊川工 19－14 岡崎西
名南工 22－19 蒲郡東
五条 26－15 東海南
中京 19－8 三谷水産
春日井東 26－13 豊田南
岡崎 17－16 蟹江

▼2回戦

桜台 28－19 東海
高蔵寺 16－14 松蔭
半田 19－15 豊川工
名南工 17－13 小牧南
岡崎城西 26－7 五条
中京 20－12 犬山南
春日井東 21－16 佐織工
愛知 21－15 岡崎

▼3回戦

桜台 31－13 高蔵寺
名南工 17－12 半田
中京 12－11 岡崎城西
愛知 18－14 春日井東

▼決勝リーグ

桜台 14－12 名南工
愛知 20－14 中京
愛知 17－12 名南工
桜台 19－17 中京
中京 19－10 名南工
愛知 15－15 桜台

〔順位〕①愛知②桜台③中京④名南工

〈女子〉

▼1回戦

一宮女 12－9 天白
安城学園 26－22 春日井
国府 14－9 岡崎西
愛知商 10－6 一宮興道
中京女 18－9 半田
豊野 12－11 蒲郡東
豊橋南 14－10 常滑北
旭野 11－7 豊田南

▼2回戦

名短付 38－4 一宮女
安城学園 21－8 武豊
松蔭 16－13 国府
佐屋 21－4 愛知商
三好 15－9 中京女
尾西 15－14 豊野
緑丘商 25－10 豊橋南
東海女 20－3 旭野

▼3回戦

名短付 33－10 安城学園
佐屋 25－5 松蔭
三好 16－6 尾西

東海女 19－13 緑丘商

▼決勝リーグ

名短付 31－7 佐屋

東海女 16－11 三好

東海女 14－11 佐屋

名短付 28－12 三好

三好 20－12 佐屋

名短付 38－6 東海女

〔順位〕①名短付②東海女③三好④佐屋

関西

第46回大阪府春季総体

（5月10日～6月21日／大阪市中央体育館ほか）

●北ブロック大会

〈男子〉

▼1回戦

北野 24－6 池田

渋谷 22－5 東淀工

大阪学院 31－10 箕面学園

北千里 16－11 東豊中

刀根山 24－3 山田

桜塚 16－9 市岡

千里 28－7 池田北

東淀川 26－9 追手門

箕面 13－11 豊中

▼2回戦

北陽 23－12 北野

西野田工 39－10 渋谷

北千里 20－13 大阪学院

都島工 18－10 刀根山

大商学園 34－8 桜塚

千里 14－7 柴島

東淀川 28－10 [illegible]田東

桜宮 17－13 箕面

▼3回戦

北陽 32－11 西野田工

都島工 23－11 北千里

大商学園 19－10 千里

桜宮 23－6 東淀川

▼準決勝

都島工 20－18 北陽

大商学園 12－10 桜宮

▼3位決定戦

北陽 16－13 桜宮

▼決勝

大商学園 14（6－8、8－6、2PTC1）14 都島工

〈女子〉

▼1回戦

成蹊 18－8 北野

桜塚 12－5 千里

池田 12－5 市岡

▼2回戦

宣真 23－6 成蹊

箕面 11－10 箕島

梅花 20－9 豊中

金蘭会 11－8 桜塚

桜宮 17－11 刀根山

東淀川 20－10 薫英

池田北 9－7 東豊中

福島女子 21－5 池田

▼3回戦

宣真 21－6 箕面

豊中 21－9 金蘭会

桜宮 24－4 東淀川

福島女子 30－9 池田北

▼準決勝

宣真 20－9 梅花

桜宮 17－15 福島女子

▼3位決定戦

福島女子 19－7 梅花

▼決勝

宣真 13（7－6、2－7）9 桜宮

●東ブロック大会

〈男子〉

▼1回戦

芥川 29－5 門真

交野 19－4 守口北

関西大倉 20－13 高槻北

島上大冠 28－11 加納

寝屋川 27－8 城東工

長尾 27－9 島本

南寝屋川 26－10 茨木東

門真南 26－14 摂陵

同志社香里 9－8 大東

淀川工 21－13 四条畷

三島 16－15 西寝屋川

茨木 24－23 牧野

▼2回戦

摂津 22－7 芥川

交野 25－9 関西大倉

寝屋川 31－18 島上大冠

島上 16－15 長尾

春日丘 31－8 南寝屋川

門真南 26－7 同志社香里

三島 25－16 淀川工

枚方 20－16 茨木

▼3回戦

摂津 20－14 交野

島上 20－16 寝屋川

春日丘 28－10 門真南

枚方 17－14 三島

▼準決勝

摂津 21－14 島上

春日丘 23－11 枚方

▼3位決定戦

島上 19－18 枚方

▼決勝

春日丘 21－17 摂津

〈女子〉

▼1回戦

高槻北 24－6 芥川

▼2回戦

摂津 33－12 高槻北

島上 16－13 長尾

牧野 25－5 茨木東

枚方 20－7 守口北

西寝屋川 15－12 春日丘

門真 8－5 寝屋川

大東 7－6 香里丘

門真南 10－7 南寝屋川

▼3回戦

摂津 29－3 島上

枚方 28－4 牧野

西寝屋川 24－7 門真

門真南 13－4 大東

▼準決勝

摂津 28－3 枚方

西寝屋川 18－10 門真南

▼3位決定戦

門真南 14－6 枚方

▼決勝

西寝屋川 19－17 摂津

●中央ブロック

〈男子〉

▼1回戦

阪南 16－9 羽曳野

清風 29－4 池島

八尾 18－8 藤井寺

東住吉工 16－15 阿部野

花園 23－11 大和川

住吉 21－10 柏原東

八尾東 23－6 藤井寺工

東住吉 29－13 港南

高津 13－11 生野

▼2回戦

桃山学院 32－3 阪南

清風 28－6 大教平野

八尾 20－8 東住吉工

花園 14－14 天王寺

此花学院 33－6 住吉

山本 10－9 八尾東

東住吉 26－10 柏原

上宮 48－9 高津

▼3回戦

桃山学院 26－11 清風

八尾 17－13 花園

此花学院 25－4 山本

上宮 37－4 東住吉

▼準決勝

桃山学院 39－2 八尾

上宮 19－13 此花学院

▼3位決定戦

此花学院 20－13 八尾

▼決勝

桃山学院 17－13 上宮

〈女子〉

▼1回戦

東住吉 12－9 八尾東

▼2回戦

四天王寺 63－1 東住吉

住吉 22－5 池島

八尾 18－10 生野

信愛女子 13－2 山本

阪南 25－2 港南
天王寺 12－0 東大阪
城南学園 25－2 藤井寺
大谷 32－5 関女短附

▼3回戦
四天王寺 49－1 住吉
信愛女子 18－3 八尾
阪南 22－3 天王寺
大谷 28－7 城南学園

▼準決勝
四天王寺 30－0 信愛女子
大谷 16－7 阪南

▼3位決定戦
阪南 11－7 信愛女子

▼決勝
四天王寺 32－8 大谷

●南ブロック大会

〈男子〉

▼1回戦
鳳 29－10 堺西
泉陽 21－14 泉大津
泉北 26－10 岸和田産
大体大浪商 17－10 貝塚南
堺上 33－2 佐野工
登美丘 18－5 長野
和泉工 17－14 富田林
東百舌鳥 23－7 和泉

▼2回戦
初芝 28－6 鳳
泉陽 25－14 久米田
泉北 17－16 高石
大体大浪商 17－13 堺東
三国丘 25－10 堺上
登美丘 28－6 堺工
和泉工 12－11 岸和田
大商大堺 25－15 東百舌鳥

▼3回戦
初芝 30－13 泉陽
泉北 13－10 大体大浪商
三国丘 22－3 登美丘

協会だより

8月は年間計画により常務理事会はお休みとさせて頂きました。

今月は各種大会が次々開催され役員はその対応に忙殺されていますが年間計画どおり着実に実施されています、結果については逐次ご報告致します。

1．8月20日より31日まで北京で開催される予定であったアジア、ジュニア選手権大会は参加国が当初予定より減少したため会期が大幅に短縮され8月27日終了となります。

2．9月5日から上海で開催を予定している極東大会は正式名称『極東ハンドボールトーナメント』として男女とも6ケ国7チームが参加して行われることが決定しました、日本選手団は渡邊副会長が団長として参加する予定でしたがAFの会議との関係もあり植村常務理事が交替する予定です。

大商大堺 20－18 和泉工

▼準決勝
初芝 19－6 泉北
大商大堺 18－14 三国丘

▼3位決定戦
三国丘 21－10 大体大浪商

▼決勝
初芝 18（11－6、7－6）12 大商大堺

〈女子〉

▼1回戦
和泉 23－5 富田林
住吉商 30－3 佐野
東百舌鳥 27－2 高石
三国丘 20－0 岸和田産
久米田 9－6 岸和田

▼2回戦
初芝 37－0 和泉
東百舌鳥 16－6 住吉商
鳳 14－8 三国丘
堺東 42－3 久米田

▼準決勝
初芝 27－16 東百舌鳥
堺東 29－15 鳳

▼3位決定戦
東百舌鳥 18－13 鳳

▼決勝
初芝 27（14－12、13－8）20 堺東

●中央大会

〈男子〉

▼予選トーナメント1回戦
春日丘 18－11 大体大浪商
都島工 15－13 此花学院
初芝 33－8 八尾
北陽 30－11 摂津
桃山学院 23－11 桜宮
大商大堺 24－12 島上
大商学園 24－13 枚方
上宮 22－12 三国丘

▼同・2回戦
都島工 15－15 春日丘
北陽 22－13 初芝
桃山学院 19－10 大商大堺
上宮 21－16 大商学園

▼5～8位決定リーグ
初芝 15－11 春日丘
大商大堺 20－15 春日丘
春日丘 19－14 大商学園
初芝 22－12 大商大堺
大商学園 17－14 初芝
大商学園 17－8 大商大堺

▼決勝リーグ
北陽 17－14 都島工
桃山学院 26－12 都島工
上宮 21－9 都島工
桃山学院 27－15 北陽
上宮 20－19 北陽
桃山学院 28－12 上宮

〔順位〕①桃山学院②上宮③北陽④都島工⑤初芝⑥大商学園⑦春日丘⑧大商大堺

〈女子〉

▼予選トーナメント1回戦
四天王寺 38－2 枚方
福島女子 24－11 堺東
初芝 22－7 信愛女学院
桜宮 14－8 門真南
宣真 35－7 鳳
摂津 21－15 阪南
西寝屋川 20－8 梅花
大谷 [illegible]－12 東百舌鳥

▼同・2回戦
四天王寺 27－11 福島女子
初芝 20－15 桜宮
宣真 23－13 摂津
大谷 18－17 西寝屋川

▼5～8位決定リーグ
桜宮 13－12 福島女子
福島女子 21－11 摂津
福島女子 26－20 西寝屋川
桜宮 16－13 摂津
西寝屋川 15－13 桜宮
西寝屋川 13－12 摂津

▼決勝リーグ
四天王寺 31－8 初芝
四天王寺 12－11 宣真
四天王寺 27－6 大谷
宣真 20－12 初芝
初芝 19－13 大谷
宣真 18－11 大谷

〔順位〕①四天王寺②宣真③初芝④大谷⑤福島女子⑥桜宮⑦西寝屋川⑧摂津

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第三二四号
昭和四十年六月七日 平成四年九月二十六日 印刷
第三種郵便物認可 平成四年十月一日 発行
東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表 (418) 二三六一
振替 東京 六―五八三四八番
編集兼発行人 中澤重夫
定価三百五拾円
(年間購読料三千三百円)